



2005 年フルクテンバウムセミナー

ユダヤ的視点から見たメシアの生涯

ハイライト版

THE HIGHLIGHTS OF THE LIFE OF CHRIST FROM A JEWISH PERSPECTIVE



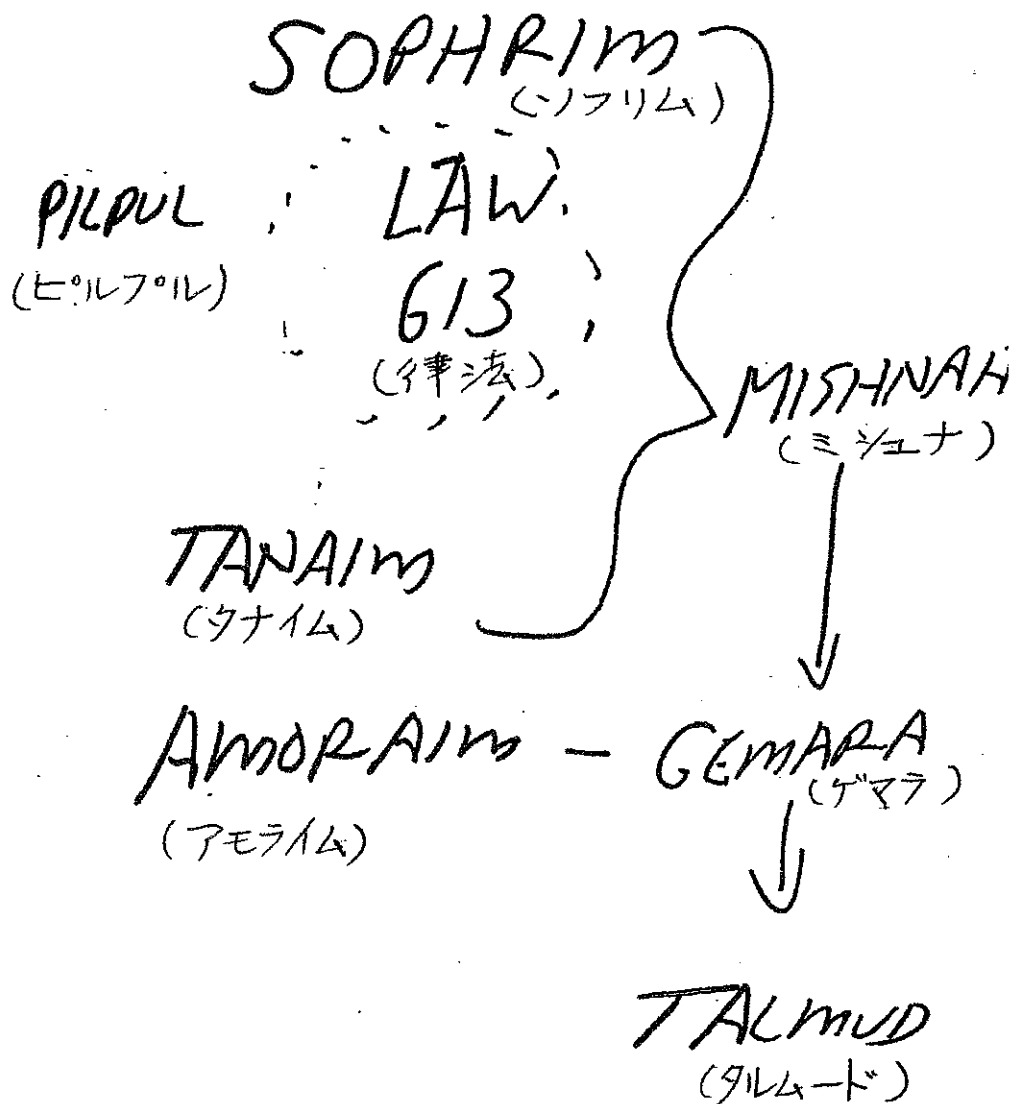
講師：アーノルド・フルクテンバウム博士
通訳：中川健一

ハーベスト・タイム・ミニシリーズ



From the desk of

ARNOLD G. FRUCHTENBAUM



ユダヤ的視点から見たメシアの生涯 ハイライト版
アーノルド・フルクテンバウム博士

アーノルド・フルクテンバウム博士

ユダヤ的視点から見たメシアの生涯
ハイライト版

I. その誕生と成長過程

- A. ヨハネの福音書の序言 — ヨハネ 1:1-18
- B. イエスの系図 — マタイ 1:1-17 ; ルカ 3:23-38
- C. ゼカリヤへの御告げ — ルカ 1:5-25
- D. マリアへの御告げ — ルカ 1:26-38
- E. メシアの誕生 — ルカ 2:1-7
- F. 羊飼いたちへの御告げ — ルカ 2:8-20
- G. イエスの割礼 — ルカ 2:21
- H. 博士たちの訪問 — マタイ 2:1-12
- I. イエスの成長 — ルカ 2:40
- J. イエスの成熟 — ルカ 2:51-52

II. イエスの教えとパリサイ人との葛藤

A. イエスとニコデモ — ヨハネ 2:23-3:21

B. らい病人のいやしに伴なう論争

1. いやし — マルコ 1:40-45; マタイ 8:2-4; ルカ 5:12-16

2. 観察段階 — マルコ 2:1-12; マタイ 9:1-8; ルカ 5:17-26

3. 詰問段階 — マルコ 2:13-17; マタイ 9:9-13; ルカ 5:27-32

C. ミシュナに関する論争

1. 伝統 — マルコ 2:18-22; マタイ 9:14-17; ルカ 5:33-39

2. 安息日 — マルコ 2:23-28; マタイ 12:1-8; ルカ 6:1-5

3. モーセの律法の解釈 — マタイ 5:17-48; 7:24-8:1

D. イエスのメシア性の否定

1. おしの霊の追い出しに伴なう論争 — マルコ 3:19-30;
マタイ 12:22-37

2. しるしに適用される新しい原則 — マタイ 12:38-45

3. イエスのメシア性の否定がもたらす結果 — マルコ 4:1-2, 33-34;
マタイ 13:1-3, 34-35; ルカ 8:4

E. ミシュナに関する論争 — マルコ 7:1-23; マタイ 15:1-20; ヨハネ 7:1

F. モーセの律法に関する論争 — ヨハネ 7:53-8:11

G. 盲目で生まれついた人のいやしに伴なう論争 — ヨハネ 9:1-41

H. ヨナの最初のしるし

1. 金持ちとラザロ — ルカ 16:19-31

2. ラザロの復活 — ヨハネ 11:1-44

3. ヨナの最初のしるしの否定 — ヨハネ 11:45-54

4. イエスの応答 — ルカ 17:11-19

I. 律法学者とパリサイ人への叱責 — マルコ 12:38-40; マタイ 23:1-39;
ルカ 20:45-47

III. メシアの裁判

A. 裁判に関するサンヘドリンの法律

1. わいろを使って人を逮捕することは、宗教的指導者にはあってはならない。
— 出エジプト 23:8

2. 日没以降の裁判の進展は許されていない。

3. 裁判官やサンヘドリンの議員が逮捕に関わってはならない。

4. 朝のいけにえの捧げものが捧げられる前に裁判を行ってはならない。

5. 裁判はすべて公開とし秘密裏に行ってはならない。

6. サンヘドリンの裁判は、神殿内にある「正義の殿堂」でのみ行われる。

7. 裁判は、先ず被告の弁護、次に告発という順で行われる。

8. 全会一致で無罪放免を主張しても良いが、全会一致で有罪を主張しては
ならない。9. 有罪を立証するためには、証人は二人か三人いなければならない、その証
言も細部にわたるまで一致していなければならない。 — 申命記 19:15

10. 被告が自らに不利な証言をすることは許されていない。

11. 大祭司が、自らの衣を裂くことは許されていない。 — レビ記 21:10

12. 裁判官は、告発のあった案件を審理するだけで、自らが告発人となることは許されていない。
13. 冒瀆の罪は、実際に神の御名が発音された時にのみ成立する。
14. 自白のみを証拠として、人を有罪にすることはできない。
15. 判決の言い渡しは、昼間にのみ許され、夜間には許されない。
16. 死刑にあたる罪の裁判では、実際の審議と判決の言い渡しとを同じ日に行ってはならず、少なくとも 24 時間の間隔を置くべきである。
17. 死刑の評決は、若い判事から順に行ない、目上の判事の影響が及ばないようにすべきである。
18. 全会一致の有罪判決は、無効である。なぜなら、23～71 人もの人間が、根回しなしに完全に一致など不可能だからである。
19. 有罪の言い渡しは、有罪決定から三日目以降でなければならない。
20. 裁判官は、人情があり、親切でなければならない。
21. 死刑の宣告を受けた者を、刑執行の前にむちで打ったり、叩いたりしてはならない。
22. 安息日に入った夜、あるいは祭りの日に、裁判を行ってはならない。

B. 逮捕 — マルコ 14:43-52; マタイ 26:47-56; ルカ 22:47-53;
ヨハネ 18:2-12

C. 宗教当局による裁判

1. アンナスの前での裁判 — ヨハネ 18:12-14; 19-23
2. カヤパとサンヘドリンの前での裁判 — マルコ 14:53, 55-65;
マタイ 26:57, 59-68; ルカ 22:54, 63-65; ヨハネ 18:24
3. サンヘドリンの前での裁判 — マルコ 15:1; マタイ 27:1; ルカ 22:66-71

D. ユダの死 — マタイ 27:3-10; 使徒 1:18-19

E. ローマによる裁判

1. ピラトの前での最初の裁判 — マルコ 15:1-5; マタイ 27:2, 11-14;
ルカ 23:1-5; ヨハネ 18:28-38
2. ヘロデ・アンティパスの前での裁判 — ルカ 23:6-12
3. ピラトの前での第二の裁判 — マルコ 15:6-15; マタイ 27:15-26;
ルカ 23:13-25; ヨハネ 18:39-19:16

IV. メシアの死

- A. カルバリへの行進 — マルコ 15:20-23; マタイ 27:31-34;
ルカ 23:26-33; ヨハネ 19:16-17
- B. 十字架上の最初の三時間 — マルコ 15:24-32; マタイ 27:35-44;
ルカ 23:33-43; ヨハネ 19:18-27
- C. 十字架上の次の三時間 — マルコ 15:33-37; マタイ 27:45-50;
ルカ 23:44-46; ヨハネ 19:28-30
- D. 十字架に伴なったしるし — マルコ 15:38-41; マタイ 27:51-56;
ルカ 23:45, 47-49
- E. イエスの埋葬 — マルコ 15:42-46; マタイ 27:57-60;
ルカ 23:50-54; ヨハネ 19:31-42
- F. 墓の封印 — マルコ 15:47; マタイ 27:61-66; ルカ 23:50-56

V. 復活と昇天

- A. 復活の日の明け方 — マルコ 16:1; マタイ 28:1
- B. 開いた墓 — マタイ 28:2-4
- C. 墓を訪問する婦人たち — マルコ 16:2-8; マタイ 28:5-8;
ルカ 24:1-8; ヨハネ 20:1
- D. 使徒たちへの報告 — ルカ 24:9-12; ヨハネ 20:2-10
- E. 最初の顕現: マグダラのマリア — マルコ 16:9-11; ヨハネ 20:11-18

- F. 第二の顕現:それ以外の婦人たち — マタイ 28:9-10
- G. 番兵の報告 — マタイ 28:11-15
- H. 第三の顕現:エマオ途上の2人の弟子 — マルコ 16:12, 13;
ルカ 24:13-32
- I. 第四の顕現:シモン・ペテロ — ルカ 24:33-35; コリント I 15:5
- J. 第五の顕現:10人の使徒 — マルコ 16:14; ルカ 24:36-43;
ヨハネ 20:19-25
- K. 第六の顕現:11人の使徒 — ヨハネ 20:26-31; コリント I 15:5
- L. 第七の顕現:7人の使徒 — ヨハネ 21
- M. 第八の顕現:500人の弟子 — マルコ 16:15-18; マタイ 28:16-20;
コリント I 15:6
- N. 第九の顕現:ヤコブ — コリント I 15:7
- O. 第十の顕現:11人の使徒 — ルカ 24:44-49; 使徒の働き 1:3-8
- P. 昇天 — マルコ 16:19, 20; ルカ 24:50-53; 使徒の働き 1:9-12
- Q. 続編

1. しるしについて

2. 使徒の働き

3. ヘブル人への手紙

4. ヨナの第三のしるし

ユダヤ的視点から見たメシアの生涯

ハイライト版

I. その誕生と成長過程

A. ヨハネの福音書の序言 — ヨハネ 1:1~18

ヨハネ 1:1-18

- 1:1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
- 1:2 この方は、初めに神とともにおられた。
- 1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。
- 1:4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。
- 1:5 光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。
- 1:6 神から遣わされたヨハネという人が現われた。
- 1:7 この人はあかしのために来た。光についてあかしするためであり、すべての人が彼によって信じるためである。
- 1:8 彼は光ではなかった。ただ光についてあかしするために来たのである。
- 1:9 すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。
- 1:10 この方はもともと世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。
- 1:11 この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。
- 1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。
- 1:13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。
- 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。
- 1:15 ヨハネはこの方について証言し、叫んで言った。「『私のあとから来る方は、私にまさる方である。私より先におられたからである。』と私が言ったのは、この方のことです。」
- 1:16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。
- 1:17 というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。
- 1:18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

B. イエスの系図

- 章 節 マタイ 1章1節 ~ 17節
(歴代誌 I 1:34 ; 2:1-15 ; 3:1-19)
- 1 1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。
 - 1 2 アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、
 - 1 3 ユダに、タマルによってパレスとザラが生まれ、パレスにエスロンが生まれ、エスロンにアラムが生まれ、
 - 1 4 アラムにアミナダブが生まれ、アミナダブにナアソンが生まれ、ナアソンにサルモンが生まれ、
 - 1 5 サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、
 - 1 6 エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、
 - 1 7 ソロモンにレハベアムが生まれ、レハベアムにアビヤが生まれ、アビヤにアサが生まれ、
 - 1 8 アサにヨサパテが生まれ、ヨサパテにヨラムが生まれ、ヨラムにウジヤが生まれ、
 - 1 9 ウジヤにヨタムが生まれ、ヨタムにアハズが生まれ、アハズにヒゼキヤが生まれ、
 - 1 10 ヒゼキヤにマナセが生まれ、マナセにアモンが生まれ、アモンにヨシヤが生まれ、
 - 1 11 ヨシヤに、バビロン移住のころエコニヤとその兄弟たちが生まれた。
 - 1 12 バビロン移住の後、エコニヤにサラテルが生まれ、サラテルにソロバベルが生まれ、
 - 1 13 ソロバベルにアビウデが生まれ、アビウデにエリヤキムが生まれ、エリヤキムにアゾルが生まれ、
 - 1 14 アゾルにサドクが生まれ、サドクにアキムが生まれ、アキムにエリウデが生まれ、
 - 1 15 エリウデにエレアザルが生まれ、エレアザルにマタンが生まれ、マタンにヤコブが生まれ、
 - 1 16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。
 - 1 17 それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。

- 章 節 ルカ 3章23節 ~ 38節
(歴代誌 I 1:1-4, 24-28 ; 2:1-15 ; 3:17 ; ルカ 4:18-22)
- 3 23 教えを始められたとき、イエスはおよそ三十歳で、人々からヨセフの子と思われていた。このヨセフは、ヘリの子、順次さかのぼって、
 - 3 24 マタテの子、レビの子、メルキの子、ヤンナイの子、ヨセフの子、
 - 3 25 マタテヤの子、アモスの子、ナホムの子、エスリの子、ナンガイの子、
 - 3 26 マハテの子、マタテヤの子、シメイの子、ヨセクの子、ヨダの子、
 - 3 27 ヨハナンの子、レサの子、ソロバベルの子、サラテルの子、ネリの子、
 - 3 28 メルキの子、アデイの子、コサムの子、エルマダムの子、エルの子、
 - 3 29 ヨシュアの子、エリエゼルの子、ヨリムの子、マタテの子、レビの子、
 - 3 30 シメオンの子、ユダの子、ヨセフの子、ヨナムの子、エリヤキムの子、
 - 3 31 メレヤの子、メナの子、マタタの子、ナタンの子、ダビデの子、
 - 3 32 エッサイの子、オベデの子、ボアズの子、サラの子、ナアソンの子、
 - 3 33 アミナダブの子、アデミンの子、アルニの子、エスロンの子、パレスの子、ユダの子、
 - 3 34 ヤコブの子、イサクの子、アブラハムの子、テラの子、ナホルの子、
 - 3 35 セルグの子、レウの子、ペレグの子、エベルの子、サラの子、
 - 3 36 カイナンの子、アルパクサデの子、セムの子、ノアの子、ラメクの子、
 - 3 37 メトセラの子、エノクの子、ヤレデの子、マハラレルの子、カイナンの子、
 - 3 38 エノスの子、セツの子、アダムの子、このアダムは神の子である。

C. ゼカリヤへの御告げ

ルカ 1章5節 ~ 25節

- 1:5 ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。
- 1:6 ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行なっていた。
- 1:7 エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。
- 1:8 さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司の務めをしていたが、
- 1:9 祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿にはいつて香をたくことになった。
- 1:10 彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。
- 1:11 ところが、主の使いが彼に現われて、香壇の右に立った。
- 1:12 これを見たザカリヤは不安を覚え、恐怖に襲われたが、
- 1:13 御使いは彼に言った。「こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。
- 1:14 その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。
- 1:15 彼は主の御前にすぐれた者となるからです。彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、(民数 6:3 ; 士師 13:4-6 ; I サムエル 1:11)
- 1:16 そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせます。
- 1:17 彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子供たちに向けさせ、(マラキ 3:1 , 4:5-6) 逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」
- 1:18 そこで、ザカリヤは御使いに言った。「私は何によってそれを知ることができましょうか。私ももう年寄りですし、妻も年をとっております。」
- 1:19 御使いは答えて言った。「私は神の御前に立つガブリエルです。(ダニエル 8:16, 9:12) あなたに話をし、この喜びのおとずれを伝えるように遣わされているのです。
- 1:20 ですから、見なさい。これらのことが起こる日までは、あなたは、おしになって、ものが言えなくなります。私のことばを信じなかったからです。私のことばは、その時が来れば実現します。」
- 1:21 人々はザカリヤを待っていたが、神殿であまり暇取るので不思議に思った。
- 1:22 やがて彼は出て来たが、人々に話をする事ができなかった。それで、彼は神殿で幻を見たのだとわかった。ザカリヤは、彼らに合図を続けるだけで、おしのままであった。
- 1:23 やがて、務めの期間が終わったので、彼は自分の家に帰った。
- 1:24 その後、妻エリサベツはみごもり、五か月の間引きこもって、こう言った。
- 1:25 「主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけてられ、今、私をこのようにしてくださいました。」

D. マリアへの御告げ

ルカ 1章26節 ~ 38節

- 1:26 ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。
- 1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。
- 1:28 御使いは、はいて来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」
- 1:29 しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。
- 1:30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。
- 1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。(イザヤ 7:14)
- 1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。(サムエルⅡ 7:12-17)
- 1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」
- 1:34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」
- 1:35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。(出エ 13:12)
- 1:36 ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。
- 1:37 神にとって不可能なことは一つもありません。」(創 18:14)
- 1:38 マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしめです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」
こうして御使いは彼女から去って行った。

E. メシアの誕生

ルカ 2章1節 ~ 7節

- 2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。
- 2:2 これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。
- 2:3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。
- 2:4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、
- 2:5 身重になっているいいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。
- 2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、
- 2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

F. 羊飼いたちへの御告げ

ルカ 2章8節 ~ 20節

- 2:8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。
- 2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。
- 2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。」
- 2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。
- 2:12 あなたがは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」
- 2:13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われて、神を賛美して言った。
- 2:14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」
- 2:15 御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」
- 2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごを捜し当てた。
- 2:17 それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。
- 2:18 それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。
- 2:19 しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。
- 2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

G. イエスの割礼

ルカ 2章21節

- 2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、(創 17:12 ; レビ 12:3) 幼子はイエスという名で呼ばれることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

H. 博士たちの訪問

マタイ 2章1節 ~ 12節

- 2:1 イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちが(民数 24:17) エルサレムにやって来て、こう言った。
- 2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」
- 2:3 それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。
- 2:4 そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。
- 2:5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。
- 2:6 『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、(ミカ 5:1-2) あなたから出るのだから。』」
- 2:7 そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。
- 2:8 そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」
- 2:9 彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。
- 2:10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。
- 2:11 そしてその家にはいって、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。
- 2:12 それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

I. イエスの成長

ルカ 2章40節

- 2:40 幼子は成長し、強くなり、知恵に満ちて行った。神の恵みとその上にあった。

J. イエスの成熟

ルカ 2章51節 ~ 52節

- 2:51 それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。
- 2:52 イエスはますます知恵が進み、背たけも大きくなり、神と人ともに愛された。(サムエル I 2:26)

II. イエスの教えとパリサイ人との葛藤

A. イエスとニコデモ

ヨハネ 2章23節 ~ 3章21節

- 2:23 イエスが、過越の祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行なわれたしるしを見て、御名を信じた。
- 2:24 しかし、イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり、
- 2:25 また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。
- 3:1 さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。
- 3:2 この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行なうことができません。」
- 3:3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」
- 3:4 ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎にはいって生まれることができますでしょうか。」
- 3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。
- 3:6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。
- 3:7 あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。
- 3:8 風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」
- 3:9 ニコデモは答えて言った。「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか。」
- 3:10 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。
- 3:11 まことに、まことに、あなたに告げます。わたしたちは、知っていることを話し、見たことをあかししているのに、あなたがたは、わたしたちのあかしを受け入れません。
- 3:12 あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。
- 3:13 だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。
- 3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、(民数 21:8-9) 人の子もまた上げられなければなりません。
- 3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」
- 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。
- 3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。
- 3:18 御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。
- 3:19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。
- 3:20 悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。
- 3:21 しかし、真理を行なう者は、光のほうに来る。その行ないが神にあってなされたことが明らかにされるためである。

B. らい病人のいやしに伴う論争

1. いやし

マルコ 1章41節 ~ 45節	マタイ 8章2節 ~ 4節	ルカ 5章12節 ~ 16節
章 節	章 節	章 節
1 40 さて、ひとりのらい病人が、イエスのみもとにお願いに来て、ひざまずいて言った。「お心一つで、私はきよくしていただけます。」	8 1 イエスが山から降りて来られると、多くの群衆がイエスに従った。	5 12 さて、イエスがある町におられたとき、全身らい病の人がいた。イエスを見ると、ひれ伏してお願いした。「主よ。お心一つで、私はきよくしていただけます。」
1 41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして、彼にさわって言われた。「わたしの心だ。きよくなれ。」	8 2 すると、ひとりのらい病人がみもとに来て、ひれ伏して言った。「主よ。お心一つで、私をきよめることがおできになります。」	5 13 イエスは手を伸ばして、彼にさわって、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに、そのらい病が消えた。
1 42 すると、すぐに、そのらい病が消えて、その人はきよくなった。	8 3 イエスは手を伸ばして、彼にさわって、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに彼のらい病はきよめられた。	5 14 イエスは、彼にこう命じられた。「だれにも話してはいけない。ただ祭司のところに行って、自分を見せなさい。そして人々へのあかしのため、モーセが命じたように、あなたのきよめの供え物をしなさい。」 (レビ 13:49, 14:2-32)
1 43 そこでイエスは、彼をきびしく戒めて、すぐに彼を立ち去らせた。	8 4 イエスは彼に言われた。「気をつけて、だれにも話さないようにしなさい。ただ、人々へのあかしのために、行って、自分を祭司に見せなさい。そして、モーセの命じた供え物をささげなさい。」	5 15 しかし、イエスのうわさは、ますます広まり、多くの人の群れが、話を聞きに、また、病気を直してもらいに集まって来た。
1 44 そのとき彼にこう言われた。「気をつけて、だれにも何も言わないようにしなさい。ただ行って、自分を祭司に見せなさい。そして、人々へのあかしのために、モーセが命じた物をもって、あなたのきよめの供え物をしなさい。」		5 16 しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。
1 45 ところが、彼は出て行って、この出来事をふれ回り、言い広め始めた。そのためイエスは表立って町の中にはいることができず、町はずれの寂しい所におられた。しかし、人々は、あらゆる所からイエスのもとにやって来た。		

2. 観察段階

マルコ 2章1節 ~ 12節 章 節	マタイ 9章1節 ~ 8節 章 節	ルカ 5章17節 ~ 26節 章 節
2 1 数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると、家におられることが知れ渡った。	9 1 イエスは舟に乗って湖を渡り、自分の町に帰られた。	5 17 ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人と律法の教師たちも、そこにすわっていた。彼らは、ガリラヤとユダヤとのすべての村々や、エルサレムから来ていた。イエスは、主の御力をもって、病気を直しておられた。
2 2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもないほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。		5 18 するとそこに、男たちが、中風をわずらっている人を、床のままで運んで来た。そして、何とかして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとしていた。
2 3 そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。	9 2 すると、人々が中風の人を床に寝かせたままで、みもとに運んで来た。	5 19 しかし、大ぜい人がいて、どうにも病人を運び込む方法が見つからないので、屋上に上って屋根の瓦をはがし、そこから彼の寝床を、ちょうど人々の真中のイエスの前に、つり降ろした。
2 4 群衆のためにイエスに近づくことができなかったので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。		
2 5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました。」と言われた。	イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された。」と言われた。	5 20 彼らの信仰を見て、イエスは「友よ。あなたの罪は赦されました。」と言われた。
2 6 ところが、その場に律法学者が数人すわっていて、心の中で理屈を言った。	9 3 すると、律法学者たちは、心の中で、「この人は神をけがしている。」と言った。	5 21 ところが、律法学者、パリサイ人たちは、理屈を言い始めた。「神をけがすことを言うこの人は、いったい何者だ。神のほかに、だれが罪を赦すことができよう。」
2 7 「この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。」		
2 8 彼らが心の中でこのように理屈を言っているのを、イエスはすぐにご自分の霊で見抜いて、こう言われた。「なぜ、あなたがたは心の中でそんな理屈を言っているのか。」	9 4 イエスは彼らの心の思いを知って言われた。 「なぜ、心の中で悪いことを考えているのか。」	5 22 その理屈を見抜いておられたイエスは、彼らに言われた。「なぜ、心の中でそんな理屈を言っているのか。」

マルコ 2章1節 ~ 12節 章 節	マタイ 9章1節 ~ 8節 章 節	ルカ 5章17節 ~ 26節 章 節
2 9 中風の人に、『あなたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け。』と言うのと、どちらがやさしいか。	9 5『あなたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて歩け。』と言うのと、どちらがやさしいか。	5 23『あなたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて歩け。』と言うのと、どちらがやさしいか。
2 10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」こう言ってから、中風の人に、	9 6 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」こう言って、それから中風の人に、「起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。	5 24 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに悟らせるために。」と言って、中風の人に、「あなたに命じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。
2 11「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。		
2 12 すると彼は起き上がり、すぐに床を取り上げて、みなが見ている前を出て行った。	9 7 すると、彼は起きて家に帰った。	5 25 すると彼は、たちどころに人々の前で立ち上がり、寝ていた床をたたんで、神をあがめながら自分の家に帰った。
それでみなの方がすっかり驚いて、「こういうことは、かつて見たことがない。」と言って神をあがめた。	9 8 群衆はそれを見て恐ろしくなり、こんな権威を人にお与えになった神をあがめた。	5 26 人々はみな、ひどく驚き、神をあがめ、恐れに満たされて、「私たちは、きょう、驚くべきことを見た。」と言った。

3. 詰問段階

マルコ 2章13節 ~ 17節
章 節

- 2 13 イエスはまた湖のほとりに出て行かれた。すると群衆がみな、みもとにやって来たので、彼らに教えられた。
- 2 14 イエスは、道を通りながら、アルパヨの子レビが収税所にすわっているのをご覧になって、「わたしについて来なさい。」と言われた。すると彼は立ち上がって従った。
- 2 15 それから、イエスは、彼の家で食卓に着かれた。取税人や罪人たちも大ぜい、イエスや弟子たちといっしょに食卓に着いていた。こういう人たちが大ぜいいて、イエスに従っていたのである。
- 2 16 パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちといっしょに食事をしておられるのを見て、イエスの弟子たちにこう言った。「なぜ、あの人は取税人や罪人たちといっしょに食事をするのですか。」
- 2 17 イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

マタイ 9章9節 ~ 13節
章 節

- 9 9 イエスは、そこを去って道を通りながら、収税所にすわっているマタイという人をご覧になって、「わたしについて来なさい。」と言われた。すると彼は立ち上がって、イエスに従った。
- 9 10 イエスが家で食事の席に着いておられるとき、見よ、取税人や罪人が大ぜい来て、イエスやその弟子たちといっしょに食卓に着いていた。
- 9 11 すると、これを見たパリサイ人たちが、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人といっしょに食事をするのですか。」
- 9 12 イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。」
- 9 13 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

ルカ 5章27節 ~ 32節
章 節

- 5 27 この後、イエスは出て行き、収税所にすわっているレビという取税人に目を留めて、「わたしについて来なさい。」と言われた。
- 5 28 するとレビは、何もかも捨て、立ち上がってイエスに従った。
- 5 29 そこでレビは、自分の家でイエスのために大ぶるまいをしたが、取税人たちや、ほかに大ぜいの人たちが食卓に着いていた。
- 5 30 すると、パリサイ人やその派の律法学者たちが、イエスの弟子たちに向かって、つぶやいて言った。「なぜ、あなたがたは、取税人や罪人どもといっしょに飲み食いするのですか。」
- 5 31 そこで、イエスは答えて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。」
- 5 32 わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。」

C. ミシュナに関する論争

1. 伝統

マルコ 2章18節 ~ 22節 章 節	マタイ 9章14節 ~ 17節 章 節	ルカ 5章33節 ~ 39節 章 節
2 18 ヨハネの弟子たちとパリサイ人たちは断食をしていた。そして、イエスのもとに来て言った。「ヨハネの弟子たちやパリサイ人の弟子たちは断食するのに、あなたの弟子たちはなぜ断食しないのですか。」	9 14 するとまた、ヨハネの弟子たちが、イエスのところに来てこう言った。「私たちとパリサイ人は断食するのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」	5 33 彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは、よく断食をしており、祈りもしています。また、パリサイ人の弟子たちも同じなのに、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」
2 19 イエスは彼らに言われた。「花婿が自分たちといっしょにいる間、花婿につき添う友だちが断食できるでしょうか。花婿といっしょにいる時は、断食できないのです。」	9 15 イエスは彼らに言われた。「花婿につき添う友だちは、花婿がいっしょにいる間は、どうして悲しんだりできませんか。」	5 34 イエスは彼らに言われた。「花婿がいっしょにいるのに、花婿につき添う友だちに断食させることが、あなたがたにできますか。」
2 20 しかし、花婿が彼らから取り去られる時が来ます。その日には断食します。	しかし、花婿が取り去られる時が来ます。その時には断食します。	5 35 しかし、やがてその時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」
2 21 だれも、真新しい布切れで古い着物の継ぎをするようなことはしません。そんなことをすれば、新しい継ぎ切れは古い着物を引き裂き、破れはもっとひどくなります。	9 16 だれも、真新しい布切れで古い着物の継ぎをするようなことはしません。そんな継ぎ切れは着物を引き破って、破れがもっとひどくなるからです。	5 36 イエスはまた一つのたとえを彼らに話された。「だれも、新しい着物から布切れを引き裂いて、古い着物に継ぎをするようなことはしません。そんなことをすれば、その新しい着物を裂くことになるし、また新しいのを引き裂いた継ぎ切れも、古い物には合わないのです。」
2 22 また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、ぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒も皮袋もだめになってしまいます。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるのです。」	9 17 また、人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、皮袋は裂けて、ぶどう酒が流れ出てしまい、皮袋もだめになってしまいます。新しいぶどう酒を新しい皮袋に入れれば、両方とも保ちます。」	5 37 また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒は流れ出て、皮袋もだめになってしまいます。 5 38 新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなければなりません。 5 39 また、だれでも古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物は良い。』と言うのです。」

2. 安息日

マルコ 2章23節 ~ 28節 章 節	マタイ 12章1節 ~ 8節 章 節	ルカ 6章1節 ~ 5節 章 節
2 23 ある安息日のこと、イエスは麦畑の中を歩いて行かれた。すると、弟子たちが道々穂を摘み始めた。	12 1 そのころ、イエスは、安息日に麦畑を通られた。弟子たちはひもじくなったので、穂を摘んで食べ始めた。	6 1 ある安息日に、イエスが麦畑を歩いておられたとき、(申命 23:25) 弟子たちは麦の穂を摘んで、手でもみ出しては食べていた。
2 24 すると、パリサイ人たちがイエスに言った。「ご覧なさい。なぜ彼らは、安息日なのに、してはならないことをするのですか。」	12 2 すると、パリサイ人たちがそれを見つけて、イエスに言った。「ご覧なさい。あなたの弟子たちが、安息日にしてはならないことをしています。」	6 2 すると、あるパリサイ人たちが言った。「なぜ、あなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。」(ヨハネ 5:10 ; 出エ 20:10 ; 申命 5:14)
2 25 イエスは彼らに言われた。「ダビデとその連れの者たちが、食物がなくてひもじかったとき、ダビデが何をしたか、読まなかったのですか。」	12 3 しかし、イエスは言われた。「ダビデとその連れの者たちが、ひもじかったときに、ダビデが何をしたか、読まなかったのですか。」	6 3 イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、ダビデが連れの者といっしょにいて、ひもじかったときにしたことを読まなかったのですか。(レビ 24:9 ; サムエル I 21:1-6)
2 26 アビヤタルが大祭司のころ、ダビデは神の家にはいて、祭司以外の者が食べてはならない供えのパンを、自分も食べ、またともにいた者たちにも与えたではありませんか。」	12 4 神の家にはいて、祭司のほかは自分も供の者たちも食べてはならない供えのパンを食べました。 12 5 また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日の神聖を冒しても罪にならないということを、律法で読んだことではないのですか。(民数 28:9-10)	6 4 ダビデは神の家にはいて、祭司以外の者はだれも食べてはならない供えのパンを取って、自分も食べたし、供の者にも与えたではありませんか。」
2 27 また言われた。「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたものではありません。」	12 6 あなたがたに言いますが、ここに宮より大きな者がいるのです。 12 7 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』ということがどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、罪のない者たちを罪に定めはしなかったでしょう。(ホセア 6:6)	
2 28 人の子は安息日にも主です。」	12 8 人の子は安息日の主です。」	6 5 そして、彼らに言われた。「人の子は、安息日の主です。」

3. モーセの律法の解釈

マタイ 5章17節 ~ 48節 ; 7章24節 ~ 8章1節

- 5:17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。
- 5:18 まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。
- 5:19 だから、戒めのうち最も小さいものの一つでも、これを破ったり、また破るように人に教えたりする者は、天の御国で、最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを守り、また守るように教える者は、天の御国で、偉大な者と呼ばれます。
- 5:20 まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。
- 5:21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。(出エ 20:13 ; 申命 5:17)
- 5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。
- 5:23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、
- 5:24 供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。
- 5:25 あなたを告訴する者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そうでないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡して、あなたはついに牢に入れられることになります。
- 5:26 まことに、あなたに告げます。あなたは最後の一コドラントを支払うまでは、そこから出ては来られません。
- 5:27 『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。(出エ 20:14 ; 申命 5:18)
- 5:28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。
- 5:29 もし、右の目が、あなたをつまづかせるなら、えぐり出して、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに投げ込まれるよりは、よいからです。
- 5:30 もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切って、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに落ちるよりは、よいからです。
- 5:31 また『だれでも、妻を離別する者は、妻に離婚状を与えよ。』と言われています。(申命 24:1)
- 5:32 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれであっても、不貞以外の理由で妻を離別する者は、妻に姦淫を犯させるのです。また、だれでも、離別された女と結婚すれば、姦淫を犯すのです。
- 5:33 さらにまた、昔の人々に、『偽りの誓いを立ててはならない。あなたの誓ったことを主に果たせ。』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。(レビ 19:12 ; 民数 30:2 ; 出エ 20:7 ; 申命 5:11 ; 23:21)
- 5:34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。(マタイ 26:63-64)すなわち、天をさして誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。
- 5:35 地をさして誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムをさして誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。(イザヤ 66:1)
- 5:36 あなたの頭をさして誓ってもいけません。あなたは、一本の髪の毛すら、白くも黒くもできないからです。(詩 48:2)
- 5:37 だから、あなたがたは、『はい。』は『はい。』、『いいえ。』は『いいえ。』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。
- 5:38 『目には目で、歯には歯で。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。(出エ 21:24 ; レビ 24:20 ; 申命 19:21)

- 5:39 しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。(ヨハネ 18:23)
- 5:40 あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。
- 5:41 あなたに一ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい。
- 5:42 求める者には与え、借りようとする者は断わらないようにしなさい。
- 5:43 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。
(レビ 19:18 ; 出エ 23:6, 25:19)
- 5:44 しかし、わたしはあなたがたに言います。(ルカ 23:34) 自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。
- 5:45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。
- 5:46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。
- 5:47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。
- 5:48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。

7章24節 ~ 8章1節

- 7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。
- 7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。
- 7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なわない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。
- 7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」
- 7:28 イエスがこれらのことばを語り終わられると、群衆はその教えに驚いた。
- 7:29 というのは、イエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられたからである。
- 8:1 イエスが山から降りて来られると、多くの群衆がイエスに従った。

D. イエスのメシア性の否定

1. おしの霊の追い出しに伴う論争

マルコ 3章19節 ~ 30節

章 節

- 3 19 イスカリオテ・ユダ。このユダが、イエスを裏切ったのである。
- 3 20 イエスが家に戻られると、また大ぜいの人が集まって来たので、みなは食事する暇もなかった。
- 3 21 イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻しに出て来た。「気が狂ったのだ。」と言う人たちがいたからである。
- 3 22 また、エルサレムから下って来た律法学者たちも、「彼は、ベルゼブルに取りつかれている。」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ。」とも言った。
- 3 23 そこでイエスは彼らをそばに呼んで、たとえによって話された。「サタンがどうしてサタンを追い出せましょう。」
- 3 24 もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。
- 3 25 また、家が内輪もめをしたら、家は立ち行きません。
- 3 26 サタンも、もし内輪の争いが起こって分裂していれば、立ち行くことができないで滅びます。
- 確かに、強い人の家に押し入って家財を略奪するには、まずその強い人を縛り上げなければなりません。
- 3 27 そのあとでその家を略奪できるのです。
- 3 28 まことに、あなたがたに告げます。人はその犯すどんな罪も赦していただけます。また、神をけがすことを言っても、それはみな赦していただけます。
- 3 29 しかし、聖霊をけがす者はだれでも、永遠に赦されず、とこしえの罪に定められます。」
- 3 30 このように言われたのは、彼らが、「イエスは、汚れた霊につかれている。」と言っていたからである。

マタイ 12章22節 ~ 37節

章 節

- 12 22 そのとき、悪霊につかれた、目も見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが彼をいやされたので、そのおしはものを言い、目も見えるようになった。
- 12 23 群衆はみな驚いて言った。「この人は、ダビデの子なのだろうか。」
- 12 24 これを聞いたパリサイ人は言った。「この人は、ただ悪霊どものかしらベルゼブルの力で、悪霊どもを追い出しているだけだ。」
(ヨハネ 7:20, 8:48, 52, 10:20)
- 12 25 イエスは彼らの思いを知ってこう言われた。「どんな国でも、内輪もめして争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも、内輪もめして争えば立ち行きません。
- 12 26 もし、サタンがサタンを追い出していて仲間割れしたのだったら、どうしてその国は立ち行くでしょう。
- 12 27 また、もしわたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの子らはだれによって追い出すのですか。だから、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく人となるのです。
- 12 28 しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。
- 12 29 強い人の家にはいって家財を奪い取ろうとするなら、まずその人を縛ってしまわないで、どうしてそのようなことができましょうか。そのようにして初めて、その家を略奪することもできるのです。
- 12 30 わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない者は散らす者です。
- 12 31 だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけます。しかし、聖霊に逆らう冒瀆は赦されません。
- 12 32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも、赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、だれであっても、この世であろうと次に来る世であろうと、赦されません。
- 12 33 木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木のよしあしはその実によって知られるからです。
- 12 34 まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましょう。心に満ちていることを口が話すのです。
- 12 35 良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。
- 12 36 わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。
- 12 37 あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです。」

2. しるしに適用される新しい原則

マタイ 12章38節 ~ 45節

- 12:38 そのとき、律法学者、パリサイ人たちのうちのある者がイエスに答えて言った。「先生。私たちは、あなたからしるしを見せていただきたいのです。」
- 12:39 しかし、イエスは答えて言われた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナのしるしのほかに、しるしは与えられません。」
- 12:40 ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。
(ヨナ 1:17, 2:1-2, 3:5, 4:3 ; 列王 I 10:1-10)
- 12:41 ニネベの人々が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。
- 12:42 南の女王が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし、見なさい。ここにソロモンよりもまさった者がいるのです。
- 12:43 汚れた霊が人から出て行って、水のない地をさまよいながら休み場を捜しますが、見つかりません。
- 12:44 そこで、『出て来た自分の家に帰ろう。』と言って、帰って見ると、家はあいていて、掃除してきちんとかたづいていました。
- 12:45 そこで、出かけて行って、自分よりも悪いほかの霊を七つ連れて来て、みなはいり込んでそこに住みつくのです。そうすると、その人の後の状態は、初めよりもさらに悪くなります。邪悪なこの時代もまた、そういうことになるのです。」

3. イエスのメシア性の否定がもたらす結果

マルコ 4章1節 ~ 2節	マタイ 13章1節 ~ 3節	ルカ 8章4節
章 節 4 1 イエスはまた湖のほとりで教え始められた。おびただしい数の群衆がみもとに集まった。それでイエスは湖の上の舟に乗り、そこに腰をおろされ、群衆はみな岸への陸地にいた。 4 2 イエスはたとえによって多くのことを教えられた。その教えの中でこう言われた。	章 節 13 1 その日、イエスは家を出て、湖のほとりにすわっておられた。 13 2 すると、大ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に移って腰をおろされた。それで群衆はみな浜に立っていた。 13 3 イエスは多くのことを、彼らにたとえで話して聞かされた。「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。	章 節 8 4 さて、大ぜいの人の群衆が集まり、また方々の町からも人々がみもとにやって来たので、 イエスはたとえを用いて話された。

マルコ 4章33節 ~ 34節	マタイ 13章34節 ~ 35節
章 節 4 33 イエスは、このように多くのたとえで、彼らの聞く力に応じて、みことばを話された。 4 34 たとえによらないで話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちにだけは、すべてのことを解き明かされた。	章 節 13 34 イエスは、これらのことをみな、たとえで群衆に話され、たとえを使わずには何もお話しにならなかった。 13 35 それは、預言者を通して言われた事が成就するためであった。「わたしはたとえ話をもって口を開き、世の初めから隠されていることどもを物語ろう。」(詩 78:2)

E. ミシュナに関する論争

マルコ 7章1節 ~ 23節	マタイ 15章1節 ~ 20節	ヨハネ 7章1節
7 1 さて、パリサイ人たちと幾人かの律法学者がエルサレムから来ていて、イエスの回りに集まった。 7 2 イエスの弟子のうちに、汚れた手で、すなわち洗わない手でパンを食べている者があるのを見て、 7 3 …パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わないでは食事をせず、 7 4 また、市場から帰ったときには、からだをきよめてからでないと食事をしない。まだこのほかにも、杯、水差し、銅器を洗うことなど、堅く守るように伝えられた、しきたりがたくさんある。… 7 5 パリサイ人と律法学者たちは、イエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの言い伝えに従って歩まないで、汚れた手でパンを食べるのですか。」 7 6 イエスは彼らに言われた。「イザヤはあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。』 7 7 彼らが、わたしを拜んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』 7 8 あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。」 7 9 また言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。」 7 10 モーセは、(出エ 20:12 申命 5:16)『あなたの父と母を敬え。』また『父や母をののしる者は、死刑に処せられる。』と言っています。 7 11 それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、私からあなたのために上げられる物は、コルバン(すなわち、ささげ物)(出エ 21:17 レビ 20:9)になりました、と言えば、 7 12 その人には、父や母のために、もはや何もさせないようにしています。 7 13 こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。」 7 14 イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。「みな、わたしの言うことを聞いて、悟るようになりなさい。」 7 15 外側から人にはいって、人を汚すことのできる物は何もありません。人から出て来るものが、人を汚すものなのです。」 7 17 イエスが群衆を離れて、家にはいられると、弟子たちは、このたとえについて尋ねた。	15 1 そのころ、パリサイ人や律法学者たちが、エルサレムからイエスのところに来て、言った。 15 2 「あなたの弟子たちは、なぜ昔の先祖たちの言い伝えを犯すのですか。パンを食べるときに手を洗っていないではありませんか。」 15 3 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。 15 7 偽善者たち。イザヤはあなたがたについて預言しているが、まさにそのとおりです。(イザヤ 29:13) 『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。』 15 8 心は、わたしから遠く離れている。 15 9 彼らが、わたしを拜んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』 15 3 「なぜ、あなたがたも、自分たちの言い伝えのために神の戒めを犯すのですか。」 15 4 神は『あなたの父と母を敬え。』また『父や母をののしる者は、死刑に処せられる。』と言われたのです。 15 5 それなのに、あなたがたは、『だれでも、父や母に向かって、私からあなたのために差し上げられる物は、供え物になりましたと言う者は、 15 6 その物をもって父や母を尊んではならない。』と言っています。こうしてあなたがたは、自分たちの言い伝えのために、神のことばを無にしてしまいました。 15 10 イエスは群衆を呼び寄せて言われた。「聞いて悟りなさい。」 15 11 口にはいる物は人を汚しません。しかし、口から出るもの、これが人を汚します。」 15 12 そのとき、弟子たちが、近寄って来て、イエスに言った。「パリサイ人が、みことばを聞いて、腹を立てたのをご存じですか。」	7 1 その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。それは、ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたので、ユダヤを巡りたいとは思われなかったからである。

- 7 18 イエスは言われた。「あなたがたまで、そんなにわからないのですか。外側から人にはいつて来る物は人を汚すことができない、ということがわからないのですか。」
- 7 19 そのような物は、人の心には、はいらないで、腹にはいいり、そして、かわやに出されてしまうのです。」イエスは、このように、すべての食物をきよいとされた。
- 7 20 また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。」
- 7 21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、
- 7 22 姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、
- 7 23 これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」

- 15 13 しかし、イエスは答えて言われた。「わたしの天の父がお植えにならなかった木は、みな根こそぎにされます。」
- 15 14 彼らのことは放っておきなさい。彼らは盲人を手引きする盲人です。もし、盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むのです。」
- 15 15 そこで、ペテロは、イエスに答えて言った。「私たちに、そのたとえを説明してください。」
- 15 16 イエスは言われた。「あなたがたも、まだわからないのですか。」
- 15 17 口にはいる物はみな、腹にはいいり、かわやに捨てられることを知らないのですか。」
- 15 18 しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。
- 15 19 悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。
- 15 20 これらは、人を汚すものです。しかし、洗わない手で食べることは人を汚しません。」

F. モーセの律法に関する論争

ヨハネ 7章53節 ~ 8章11節

- 7:53 [そして人々はそれぞれ家に帰った。]
- 8:1 イエスはオリーブ山に行かれた。
- 8:2 そして、朝早く、イエスはもう一度宮にはいられた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教え始められた。
- 8:3 すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕えられたひとりの女を連れて来て、真中に置いてから、
- 8:4 イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。」
- 8:5 モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています(レビ 20:10 申命 22:22-24)。ところで、あなたは
- 何と言われますか。」
- 8:6 彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。
- 8:7 けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」
- 8:8 そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。
- 8:9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。
- 8:10 イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」
- 8:11 彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。』

G. 盲目で生まれついた人のいやしに伴う論争

ヨハネ 9章1節 ~ 41節

- 9:1 またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。
- 9:2 弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」
- 9:3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。
- 9:4 わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、屋の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。
- 9:5 わたしが世にいる間、わたしは世の光です。」
- 9:6 イエスは、こう言ってから、地面につばきをして、そのつばきで泥を作られた。そしてその泥を盲人の目に塗って言われた。
- 9:7 「行って、シロアム(訳して言えば、遣わされた者)の池で洗いなさい。」そこで、彼は行って、洗った。すると、見えるようになって、帰って行った。
- 9:8 近所の人たちや、前に彼がこじきをしていたのを見ていた人たちが言った。「これはすわって物ごいをしていた人ではないか。」
- 9:9 ほかの人は、「これはその人だ。」と言い、またほかの人は、「そうではない。ただその人に似ているだけだ。」と言った。当人は、「私がその人です。」と言った。
- 9:10 そこで、彼らは言った。「それでは、あなたの目はどのようにしてあいたのですか。」
- 9:11 彼は答えた。「イエスという方が、泥を作って、私の目に塗り、『シロアムの池に行って洗いなさい。』と私に言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました。」
- 9:12 また彼らは彼に言った。「その人はどこにいるのですか。」彼は「私は知りません。」と言った。
- 9:13 彼らは、前に盲目であったその人を、パリサイ人たちのところに連れて行った。
- 9:14 ところで、イエスが泥を作って彼の目をあけられたのは、安息日であった。
- 9:15 こういうわけでもう一度、パリサイ人も彼に、どのようにして見えるようになったかを尋ねた。彼は言った。「あの方が私の目に泥を塗ってくださって、私が洗いました。私はいま見えるのです。」
- 9:16 すると、パリサイ人の中のある人々が、「その人は神から出たのではない。安息日を守らないからだ。」と言った。しかし、ほかの者は言った。「罪人である者に、どうしてこのようなしるしを行なうことができよう。」そして、彼らの間に、分裂が起こった。
- 9:17 そこで彼らはもう一度、盲人に言った。「あの方が目をあけてくれたことで、あの人を何だと思っているのか。」彼は言った。「あの方は預言者です。」
- 9:18 しかしユダヤ人たちは、目が見えるようになったこの人について、彼が盲目であったが見えるようになったということを信ぜず、ついにその両親を呼び出して、
- 9:19 尋ねて言った。「この人はあなたがたの息子で、生まれつき盲目だったとあなたがたが言っている人ですか。それでは、どうしていま見えるのですか。」
- 9:20 そこで両親は答えた。「私たちは、これが私たちの息子で、生まれつき盲目だったことを知っています。
- 9:21 しかし、どのようにしていま見えるのかは知りません。また、だれがあれの目をあけたのか知りません。あれに聞いてください。あれはもうおとなです。自分のことは自分で話すでしょう。
- 9:22 彼の両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れたからであった。すでにユダヤ人たちは、イエスをキリストであると告白する者があれば、その者を会堂から追放すると決めていたからである。
- 9:23 そのため彼の両親は、「あれはもうおとなです。あれに聞いてください。」と言ったのである。
- 9:24 そこで彼らは、盲目であった人をもう一度呼び出して言った。「神に栄光を帰しなさい。私たちはあの方が罪人であることを知っているのだ。」
- 9:25 彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、私は知りません。ただ一つのことだけ知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」
- 9:26 そこで彼らは言った。「あの方はおまえに何をしたのか。どのようにしてその目をあけたのか。」
- 9:27 彼は答えた。「もうお話ししたのですが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜもう一度聞こうとするのです。」

あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか。」

9:28 彼らは彼をののしって言った。「おまえもあの者の弟子だ。しかし私たちはモーセの弟子だ。」

9:29 私たちは、神がモーセにお話しになったことは知っている。しかし、あの者については、どこから来たのか知らないのだ。」

9:30 彼は答えて言った。「これは、驚きました。あなたがたは、あの方がどこから来られたのか、ご存じないと言う。しかし、あの方は私の目をおあけになったのです。」

9:31 神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬い、そのみこころを行なうなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています。

9:32 盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどとは、昔から聞いたこともありません。

9:33 もしあの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできないはずですよ。」

9:34 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。

9:35 イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」

9:36 その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がその方を信じることができますように。」

9:37 イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれですよ。」

9:38 彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。

9:39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」

9:40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」

9:41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちが目が見える。』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。」

H. ヨナの最初のしるし

1. 金持ちとラザロ

ルカ 16章19節 ~ 31節

- 16:19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。
- 16:20 ところが、その門前にラザロという全身おできの貧乏人が寝ていて、
- 16:21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおできをなめていた。
- 16:22 さて、この貧乏人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。
- 16:23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。
- 16:24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』
- 16:25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。』
- 16:26 そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです。』
- 16:27 彼は言った。『父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。』
- 16:28 私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみのある場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』
- 16:29 しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。』
- 16:30 彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』
- 16:31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』

2. ラザロの復活

ヨハネ 11章1節 ~ 44節

- 11:1 さて、ある人が病気にかかっていた。ラザロといって、マリヤとその姉妹マルタとの村の出で、ベタニヤの人であった。
- 11:2 このマリヤは、主に香油を塗り、髪の毛でその足をぬぐったマリヤであって、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。
- 11:3 そこで姉妹たちは、イエスのところに使いを送って、言った。「主よ。ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気で。」
- 11:4 イエスはこれを聞いて、言われた。「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」
- 11:5 イエスはマルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。
- 11:6 そのようなわけで、イエスは、ラザロが病んでいることを聞かれたときも、そのおられた所になお二日とどまられた。
- 11:7 その後、イエスは、「もう一度ユダヤに行こう。」と弟子たちに言われた。
- 11:8 弟子たちはイエスに言った。「先生。たった今ユダヤ人たちが、あなたを石打ちにしようとしていたのに、またそこにおいでになるのですか。」
- 11:9 イエスは答えられた。「昼間は十二時間あるでしょう。だれでも、昼間歩けば、つまづくことはありません。この世の光を見ているからです。」
- 11:10 しかし、夜歩けばつまづきます。光がその人のうちにないからです。」
- 11:11 イエスは、このように話され、それから、弟子たちに言われた。「わたしたちの友ラザロは眠っています。しかし、わたしは

彼を眠りからさましに行くのです。」

11:12 そこで弟子たちはイエスに言った。「主よ。眠っているのなら、彼は助かるでしょう。」

11:13 しかし、イエスは、ラザロの死のことを言われたのである。だが、彼らは眠った状態のことを言われたものと思った。

11:14 そこで、イエスはそのとき、はっきりと彼らに言われた。「ラザロは死んだのです。」

11:15 わたしは、あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいきます。さあ、彼のところへ行きましょう。」

11:16 そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間に言った。「私たちも行つて、主といっしょに死のうではないか。」

11:17 それで、イエスがおいでになってみると、ラザロは墓の中に入れられて四日もたっていた。

11:18 ベタニヤはエルサレムに近く、三キロメートルほど離れた所にあった。

11:19 大ぜいのユダヤ人がマルタとマリヤのところに來ていた。その兄弟のことについて慰めるためであった。

11:20 マルタは、イエスが來られたと聞いて迎えに行った。マリヤは家ですわっていた。

11:21 マルタはイエスに向かって言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」

11:22 今でも私は知っております。あなたが神にお求めになることは何でも、神はあなたにお与えになります。」

11:23 イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」

11:24 マルタはイエスに言った。「私は、終わりの日のよみがえりの時に、彼がよみがえることを知っております。」

11:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

11:26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

11:27 彼女はイエスに言った。「はい。主よ。私は、あなたが世に來られる神の子キリストである、と信じております。」

11:28 こう言ってから、帰って行って、姉妹マリヤを呼び、「先生が見えています。あなたを呼んでおられます。」とそつと言った。

11:29 マリヤはそれを聞くと、すぐ立ち上がって、イエスのところに行った。

11:30 さてイエスは、まだ村にはいらなくて、マルタが出迎えた場所におられた。

11:31 マリヤとともに家において、彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出て行くのを見て、マリヤが墓に泣きに行くのだらうと思い、彼女について行った。

11:32 マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にかかると、その足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」

11:33 そこでイエスは、彼女が泣き、彼女といっしょに來たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、

11:34 言われた。「彼をどこに置きましたか。」彼らはイエスに言った。「主よ。來てご覧ください。」

11:35 イエスは涙を流された。

11:36 そこで、ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。主はどんなに彼を愛しておられたことか。」

11:37 しかし、「盲人の目をあけたこの方が、あの人を死なせないでおくことはできなかったのか。」と言う者もいた。

11:38 そこでイエスは、またも心のうちに憤りを覚えながら、墓に來られた。墓はほら穴であつて、石がそこに立てかけてあつた。

11:39 イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだ人の姉妹マルタは言った。「主よ。もう臭くなつておりましょう。四日になりますから。」

11:40 イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言つたではありませんか。」

11:41 そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。」

11:42 わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために、こう申したのです。」

11:43 そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。出て來なさい。」

11:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て來た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、歸らせなさい。」

3. ヨナの最初のしるしの否定

ヨハネ 11章45節 ~ 54節

- 11:45 そこで、マリヤのところに来ていて、イエスがなさったことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。
- 11:46 しかし、そのうちの幾人かは、パリサイ人たちのところへ行つて、イエスのなさったことを告げた。
- 11:47 そこで、祭司長とパリサイ人たちは議会を召集して言った。「われわれは何をしているのか。あの人が多くをしるしを行なっているというのに。」
- 11:48 もしあの人をこのまま放っておくなら、すべての人があの人を信じるようになる。そうすると、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も奪い取ることになる。」
- 11:49 しかし、彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であつたカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは全然何もわかっていない。」
- 11:50 ひとりの人が民の代わりに死んで、国民全体が減びないほうが、あなたがたにとって得策だということも、考えに入れていない。」
- 11:51 とところで、このことは彼が自分から言ったのではなくて、その年の大祭司であつたので、イエスが国民のために死のうとしておられること、
- 11:52 また、ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。
- 11:53 そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てた。
- 11:54 そのために、イエスはもはやユダヤ人たちの間を公然と歩くことをしないで、そこから荒野に近い地方に去り、エフラ임という町にはいり、弟子たちとともにそこに滞在された。

4. イエスの応答

ルカ 17章11節 ~ 19節

- 17:11 そのころイエスはエルサレムに上られる途中、サマリヤとガリラヤの境を通られた。
- 17:12 ある村にはいと、十人のらい病人がイエスに出会つた。彼らは遠く離れた所に立って、(レビ 13:45-46)
- 17:13 声を張り上げて、「イエスさま、先生。どうぞあわれんでください。」と言つた。
- 17:14 イエスはこれを見て、言われた。「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中でいやされた。(レビ 13:49, 14:1-3)
- 17:15 そのうちのひとりは、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、
- 17:16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であつた。
- 17:17 そこでイエスは言われた。「十人いやされたのではないか。九人はどこにいるのか。」
- 17:18 神をあがめるために戻つて来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」
- 17:19 それからその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。」

I. 律法学者とパリサイ人への叱責

マルコ 12章38節 ~ 40節	マタイ 23章1節 ~ 39節	ルカ 20章45節 ~ 47節
章 節 12 38 イエスは其の教えの中でこう言われた。「律法学者たちには氣をつけなさい。	章 節 23 1 そのとき、イエスは群衆と弟子たちに話をし	章 節 20 45 また、民衆がみな耳を傾けてい
つけれなさい。	て、	るときに、イエスは弟子たちにこ
彼らは、長い衣をまとって歩き 回ったり、広場であいさつされ たりすることが大好きで、	23 2 こう言われた。「律法学者、パリサイ人た ちは、モーセの座を占めています。 23 3 ですから、彼らがあなたがたに言うことはみ な、行ない、守りなさい。けれども、彼らの行 ないをまねてはいけません。彼らは言うこと は言うが、実行しないからです。 23 4 また、彼らは重い荷をくって、人の肩に載 せ、自分はそれに指一本さわろうとはしませ ん。	20 46 「律法学者たちには氣をつけな さい。 彼らは、長い衣をまとって歩き回 ったり、広場であいさつされたり することが好きで、
12 39 また会堂の上席や、宴会の上 座が大好きです。	23 5 彼らのしていることはみな、人に見せるため です(出エ 13:9; 民数 13:38-39; 申命 6:8, 11:18)。経札の幅を広くしたり、衣のふさを長 くしたりするのもそうです。 23 6 また、宴会の上座や会堂の上席が大好きで、	また会堂の上席や宴会の上座 が大好きです。
12 40 また、やもめの家を食いつぶ	23 7 広場であいさつされたり、人から先生と呼ば れたりすることが好きです。 23 8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけ ません。あなたがたの教師はただひとりしか なく、あなたがたはみな兄弟だからです。 23 9 あなたがたは地上のだれかを、われらの父と 呼んではいけません。あなたがたの父はただ ひとり、すなわち天にいます父だけだからで す。 23 10 また、師と呼ばれてはいけません。あなたが たの師はただひとり、キリストだからです。 23 11 あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなた がたに仕える人でなければなりません。 23 12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分 を低くする者は高くされます。	20 47 また、やもめの家を食いつぶし、 見えを飾るために長い折りをし ます。こういう人たちは人一倍き びしい罰を受けるのです。」
し、見えを飾るために長い折り をします。こういう人たちは人一 倍きびしい罰を受けるので す。」	23 13 しかし、忌むべきものだ。偽善の律法学者、 パリサイ人たち。あなたがたは、人々から天 の御国をさえぎっているのです。自分もはい らず、はいろいろとしている人々をもはいらせな いのです。	

マタイ 23章1節 ~ 39節

章 節

- 23 15 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。改宗者をひとりつくるのに、海と陸とを飛び回り、改宗者ができると、その人を自分より倍も悪いゲヘナの子にするからです。
- 23 16 忌わしいものだ。目の見えぬ手引きども。あなたがたはこう言う。『だれでも、神殿をさして誓ったのなら、何でもない。しかし、神殿の黄金をさして誓ったら、その誓いを果たさなければならない。』
- 23 17 愚かで、目の見えぬ人たち。黄金と、黄金を聖いものにする神殿と、どちらがたいせつなのか。
- 23 18 また、こう言う。『だれでも、祭壇をさして誓ったのなら、何でもない。しかし、祭壇の上の供え物をさして誓ったら、その誓いを果たさなければならない。』
- 23 19 目の見えぬ人たち。供え物と、その供え物を聖いものにする祭壇と、どちらがたいせつなのか。
- 23 20 ですから、祭壇をさして誓う者は、祭壇をも、その上のすべての物をもさして誓っているのです。
- 23 21 また、神殿をさして誓う者は、神殿をも、その中に住まわれる方をもさして誓っているのです。
- 23 22 天をさして誓う者は、神の御座とそこに座しておられる方をさして誓うのです。
- 23 23 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、はつか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが(レビ 27:30 ;ミカ 6:8) 律法の中ではるかに重要なもの、すなわち正義もあわれみも誠実もおろそかにしているのです。これこそしなければならぬことです。ただし、他のほうもおろそかにしてはいけません。
- 23 24 目の見えぬ手引きども。あなたがたは、ぶよは、こして除くが、らくだはのみこんでいます。
- 23 25 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。
- 23 26 目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。
- 23 27 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいのように、
- 23 28 あなたがたも、外側は人に正しいと見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。
- 23 29 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは預言者の墓を建て、義人の記念碑を飾って、
- 23 30 『私たちが、先祖の時代に生きていたら、預言者たちの血を流すような仲間にはならなかつただろう。』と言います。
- 23 31 こうして、預言者を殺した者たちの子孫だと、自分で証言しています。
- 23 32 あなたがたも先祖の罪の目盛りの不足分を満たしなさい。
- 23 33 おまえたち蛇ども、まむしのすえども。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうしてのがれることができよう。
- 23 34 だから、わたしが預言者、知者、律法学者たちを遣わすと、おまえたちはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、またある者を会堂でむち打ち、町から町へと迫害して行くのです。
- 23 35 それは、義人アベルの血からこのかた、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上で流されるすべての正しい血の報復があなたがたの上に来るためです。
(創4:8 歴代Ⅱ24:20-21)
- 23 36 まことに、あなたがたに告げます。これらの報いはみな、この時代の上に来ます。
- 23 37 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。
- 23 38 見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたまに残される。(エレミヤ 12:7, 22:5)
- 23 39 あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。』(詩 118:26)

Ⅲ. メシアの裁判

A. 裁判に関するサンヘドリンの法律

1. わいろを使って人を逮捕することは、宗教的指導者にはあってはならない。
2. 日没以降の裁判の進展は許されていない。
3. 裁判官やサンヘドリンの議員が逮捕に関わってはならない。
4. 朝のいけにえの捧げものが捧げられる前に裁判を行ってはならない。
5. 裁判はすべて公開とし秘密裏に行ってはならない。
6. サンヘドリンの裁判は、神殿内にある「正義の殿堂」でのみ行われる。
7. 裁判は、先ず被告の弁護、次に告発という順で行われる。
8. 全会一致で無罪放免を主張しても良いが、全会一致で有罪を主張してはならない。
9. 有罪を立証するためには、証人は二人か三人いなければならない、その証言も細部にわたるまで一致していなければならない。
10. 被告が自らに不利な証言をすることは許されていない。
11. 大祭司が、自らの衣を裂くことは許されていない。
12. 裁判官は、告発のあった案件を審理するだけで、自らが告発人となることは許されていない。
13. 冒瀆の罪は、実際に神の御名が発音された時にのみ成立する。
14. 自白のみを証拠として、人を有罪にすることはできない。
15. 判決の言い渡しは、屋間にのみ許され、夜間には許されない。
16. 死刑にあたる罪の裁判では、実際の審議と判決の言い渡しとを同じ日に行ってはならず、少なくとも 24 時間の間隔を置くべきである。
17. 死刑の評決は、若い判事から順に行ない、目上の判事の影響が及ばないようにすべきである。
18. 全会一致の有罪判決は、無効である。なぜなら、23~71 人もの人間が、根回しなしに完全に一致など不可能だからである。
19. 有罪の言い渡しは、有罪決定から三日目以降でなければならない。
20. 裁判官は、人情があり、親切でなければならない。
21. 死刑の宣告を受けた者を、刑執行の前にむちで打ったり、叩いたりしてはならない。
22. 安息日に入った夜、あるいは祭りの日に、裁判を行ってはならない。

B. 逮捕

章 節 マルコ 14章43節～52節

14 43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりのユダが現われた。剣や棒を手にした群衆もいっしょであった。群衆はみな、祭司長、律法学者、長老たちから差し向けられたものであった。

14 44 イエスを裏切る者は、彼らと前もって次のような合図を決めておいた。「私が口づけをするのが、その人だ。その人をつかまえて、しっかりと引いて行くのだ。」

14 45 それで、彼はやって来るとすぐに、イエスに近寄って、「先生。」と言って、口づけした。

章 節 マタイ 26章47節～56節

26 47 イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二弟子のひとりであるユダがやって来た。剣や棒を手にした大ぜいの群衆もいっしょであった。群衆はみな、祭司長、民の長老たちから差し向けられたものであった。

26 48 イエスを裏切る者は、彼らと合図を決めて、「私が口づけをするのが、その人だ。その人をつかまえるのだ。」と言っておいた。

26 49 それで、彼はすぐにイエスに近づき、「先生。お元気で。」と言って、口づけした。

章 節 ルカ 22章47節～53節

22 47 イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひとりで、ユダという者が、先頭に立っていた。

ユダはイエスに口づけしようとして、みもとに近づいた。

章 節 ヨハネ 18章2節～12節

18 2 ところで、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスがたびたび弟子たちとそこで会合されたからである。

18 3 そこで、ユダは一隊の兵士と、祭司長、パリサイ人たちから送られた役人たちを引き連れて、ともしびとたいまつと武器を持って、そこに来た。

18 4 イエスは自分の身に起ころうとするすべてのことを知っておられたので、出て来て、「だれを捜すのか。」と彼らに言われた。

18 5 彼らは、「ナザレ人イエスを。」と答えた。イエスは彼らに「それはわたしです。」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らといっしょに立っていた。

18 6 イエスが彼らに、「それはわたしです。」と言われたとき、彼らはあとずさりし、そして地に倒れた。

18 7 そこで、イエスがもう一度、「だれを捜すのか。」と問われると、彼らは「ナザレ人イエスを。」と言った。

18 8 イエスは答えられた。「それはわたしだと、あなたがたに言ったでしょう。もしわたしを捜しているのなら、この人たちはこのままで去らせなさい。」

18 9 それは、「あなたがわたしに下さった者のうち、ただのひとりをも失いませんでした。」とイエスが言われたことばが実現するためであった。

- 14 46 すると人々は、イエスに手をかけて捕えた。
- 14 47 そのとき、イエスのそばに立っていたひとりが、剣を抜いて大祭司のしもべに撃ちかかり、その耳を切り落とした。
- 14 48 イエスは彼らに向かって言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕えに来たのですか。」
- 14 49 わたしは毎日、宮であなたがたといっしょにいて、教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕えなかったのです。しかし、こうなったのは聖書のことばが実現するためです。」
- 14 50 すると、みながイエスを見捨てて、逃げてしまった。
- 14 51 ある青年が、素はだに亜麻布を一枚まとったまま、イエスについて行ったところ、人々は彼を捕えようとした。
- 14 52 すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、はだかで逃げた。
- 26 50 イエスは彼に、「友よ。何のために来たのですか。」と言われた。そのとき、群衆が来て、イエスに手をかけて捕えた。
- 26 51 すると、イエスといっしょにいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに撃ちかかり、その耳を切り落とした。
- 26 52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。」
- 26 53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとでも思うのですか。
- 26 54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」
- 26 55 そのとき、イエスは群衆に言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしをつかまえに来たのですか。わたしは毎日、宮ですわって教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕えなかったのです。」
- 26 56 しかし、すべてこうなったのは、預言者たちの書が実現するためです。」そのとき、弟子たちはみな、イエスを見捨てて、逃げてしまった。
- 22 48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか。」と言われた。
- 22 49 イエスの回りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ。剣で打ちましようか。」と言った。
- 22 50 そしてそのうちのある者が、大祭司のしもべに撃ちかかり、その右の耳を切り落とした。
- 22 51 するとイエスは、「やめなさい。それまで。」と言われた。そして、耳にさわって彼を直してやられた。
- 18 10 シモン・ペテロは、剣を持っていたが、それを抜き、大祭司のしもべを撃ち、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマルコスであった。
- 18 11 そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。」
- 18 12 そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たちは、イエスを捕えて縛り、
- 22 52 そして押しかけて来た祭司長、宮の守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのですか。」
- 22 53 あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わたしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です。」

C. 宗教当局による裁判

1. アンナスの前での裁判

ヨハネ 18章12節 ~ 14節, 19節 ~ 23節

- 18:12 そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たちは、イエスを捕えて縛り、
 18:13 まずアンナスのところに連れて行った。彼がその年の大祭司カヤパのしゅうとだったからである。
 18:14 カヤパは、ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である、とユダヤ人に助言した人である。
 18:19 そこで、大祭司はイエスに、弟子たちのこと、また、教えのことについて尋問した。
 18:20 イエスは彼に答えられた。「わたしは世に向かって公然と話しました。わたしはユダヤ人がみな集まって来る会堂や宮で、いつも教えたのです。隠れて話したことは何もありません。
 18:21 なぜ、あなたはわたしに尋ねるのですか。わたしが人々に何を話したかは、わたしから聞いた人たちに尋ねなさい。彼らならわたしが話した事がらを知っています。」
 18:22 イエスがこう言われたとき、そばに立っていた役人のひとりが、「大祭司にそのような答え方をするのか。」と言って、平手でイエスを打った。
 18:23 イエスは彼に答えられた。「もしわたしの言ったことが悪いなら、その悪い証拠を示しなさい。しかし、もし正しいなら、なぜ、わたしを打つのか。」

2. カヤパとサンヘドリンの前での裁判

マルコ 14章53, 55-65節	マタイ 26章57, 59-68節	ルカ 22章54, 63-65節	ヨハネ 18章24節
章 節	章 節	章 節	章 節
14 53 彼らがイエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長、長老、律法学者たちがみな、集まって来た。	26 57 イエスをつかまえた人たちは、イエスを大祭司カヤパのところへ連れて行った。そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。	22 54 彼らはイエスを捕え、引いて行って、大祭司の家に連れて来た。ペテロは、遠く離れてついて行った。	18 24 アンナスはイエスを、縛ったままで大祭司カヤパのところに送った。
14 55 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える証拠をつかもうと努めたが、何も見つからなかった。	26 59 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える偽証を求めていた。		
14 56 イエスに対する偽証をした者は多かったが、一致しなかったのである。	26 60 偽証者がたくさん出て来たが、証拠はつかめなかった。しかし、最後にふたりの者が進み出て、		
14 57 すると、数人が立ち上がって、イエスに対する偽証をして、次のように言った。	26 61 言った。「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる。』と言いました。」(ヨハネ 2:19)		
14 58 「私たちは、この人が『わたしは手で造られたこの神殿をこわして、三日のうちに、手で造られない別の神殿を造って見せる。』と言うのを聞きました。」			

- 14 59 しかし、この点でも証言は一致しなかった。
- 14 60 そこで大祭司が立ち上がり、真中に進み出てイエスに尋ねて言った。「何も答えないのですか。この人たちが、あなたに不利な証言をしています、これはどうなのですか。」
- 14 61 しかし、イエスは黙ったままで、何もお答えにならなかった。大祭司は、さらにイエスに尋ねて言った。「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」
- 14 62 そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」(詩 110:1 ; ダニエル 7:13)
- 14 63 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「これでもまだ、証人が必要でしょうか。」
- 14 64 あなたがたは、神をけがすこのことばを聞いたのです(レビ 24:16)。どう考えますか。」すると、彼らは全員で、イエスには死刑に当たる罪があると決めた。
- 14 65 そうして、ある人々は、イエスにつばきをかけ、御顔をおおい、こぶしでなぐりつけ、「言い当てて見ろ。」などと言ったりし始めた。また、役人たちは、イエスを受け取って、平手で打った。
- 26 62 そこで、大祭司は立ち上がってイエスに言った。「何も答えないのですか。この人たちが、あなたに不利な証言をしています、これはどうなのですか。」
- 26 63 しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」
- 26 64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりです。なお、あなたがたに言うておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見ることになります。」
- 26 65 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒瀆だ。これでもまだ、証人が必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。」
- 26 66 どう考えますか。」彼らは答えて、「彼は死刑に当たる。」と言った。
- 26 67 そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、
- 26 68 こう言った。「当ててみる。キリスト。あなたを打ったのはだれか。」
- 22 63 さて、イエスの監視人どもは、イエスをからかい、むちでたたいた。
- 22 64 そして目隠しをして、「言い当ててみる。今たたいたのはだれか。」と聞いたりした。
- 22 65 また、そのほかさまざまな悪口をイエスに浴びせた。

3. サンヘドリンの前での裁判

マルコ 15章1節	マタイ 27章1節	ルカ 22章66-71節
章 節	章 節	章 節
15 1 夜が明けるとすぐに、祭司長たちをはじめ、長老、律法学者たちと、全議会とは協議をこらしたすえ、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。	27 1 さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、イエスを死刑にするために協議した。	22 66 夜が明けると、民の長老会、それに祭司長、律法学者たちが、集まった。彼らはイエスを議会に連れ出し、
		22 67 こう言った。「あなたがキリストなら、そうだと言いなさい。」しかしイエスは言われた。「わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょうし、
		22 68 わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。
		22 69 しかし今から後、人の子は、神の大能の右の座に着きます。」(詩 110:1 ; ダニエル 7:13)
		22 70 彼らはみなで言った。「ではあなたは神の子ですか。」すると、イエスは彼らに「あなたがたの言うとおり、わたしはそれです。」と言われた。
		22 71 すると彼らは「これでもまだ証人が必要でしょうか。私たち自身が彼の口から直接それを聞いたのだから。」と言った。

D. ユダの死

マタイ 27章3節 ~ 10節	使徒の働き 1章18, 19節
章 節	章 節
27 3 そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、	1 18 (ところがこの男は、不正なことをして得た報酬で地所を手に入れたが、まっさかさまに落ち、からだは真二つに裂け、はらわたが全部飛び出してしまった。)
27 4 「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして。」と言った。しかし、彼らは、「私たちの知ったことか。自分で始末することだ。」と言った。	1 19 このことが、エルサレムの住民全部に知れて、その地所は彼らの国語でアケルダマ、すなわち『血の地所』と呼ばれるようになった。)
27 5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。	
27 6 祭司長たちは銀貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから。」と言った。(申命 23:18)	
27 7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。	
27 8 それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。	
27 9 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。	
27 10 彼らは、主が私にお命じになったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。」 (ゼカリヤ 11:13 ; エレミヤ 18:2, 19:2, 32:6-15)	

E. ローマによる裁判

1. ピラトの前での最初の裁判

マルコ 15章1節-5節 章 節	マタイ 27章 章 節 2, 11-14節	ルカ 23章1-5節 章 節	ヨハネ 18章28節 ~ 38節 章 節
15 1 夜が明けるとすぐに、祭司長たちをはじめ、長老、律法学者たちと、全議会とは協議をこらしたすえ、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。	27 2 それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。	23 1 そこで、彼らは全員が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。	18 28 さて、彼らはイエスを、カヤパのところから総督官邸に連れて行った。時は明け方であった。彼らは、過越の食事が食べられなくなることをないように、汚れを受けまいとして、官邸にはいなかった。
		23 2 そしてイエスについて訴え始めた。彼らは言った。「この人はわが国民を惑わし、カイザルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることがわかりました。」	18 29 そこで、ピラトは彼らのところに出て来て言った。「あなたがたは、この人に対して何を告発するのですか。」 18 30 彼らはピラトに答えた。「もしこの人が悪いことをしていなかったら、私たちはこの人をあなたに引き渡しはしなかったでしょう。」 18 31 そこでピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、自分たちの律法に従ってさばきなさい。」ユダヤ人たちは彼に言った。「私たちに、だれを死刑にすることも許されてはいません。」 18 32 これは、ご自分がどのような死に方をされるのかを示して話されたイエスのことばが成就するためであった。
15 2 ピラトはイエスに尋ねた。「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」イエスは答えて言われた。「そのとおりです。」	27 11 さて、イエスは総督の前に立たれた。すると、総督はイエスに「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」と尋ねた。イエスは彼に「そのとおりです。」と言われた。	23 3 するとピラトはイエスに、「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」と尋ねた。イエスは答えて、「そのとおりです。」と言われた。	18 33 そこで、ピラトはもう一度官邸にはいつて、イエスを呼んで言った。「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」 18 34 イエスは答えられた。「あなたは、自分でそのことを言っているのですか。それともほかの人が、あなたにわたしのことを話したのですか。」 18 35 ピラトは答えた。「私はユダヤ人ではないでしょう。あなたの同国人と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのです。あなたは何をしたのですか。」 18 36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように、戦ったことでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

マルコ 15章 章 節 1節-5節	マタイ 27章 章 節 2, 11-14節	ルカ 23章1-5節 章 節	ヨハネ 18章28節 ~ 38節 章 節
15 3 そこで、祭司長たちはイエスをきびしく訴えた。	27 12 しかし、祭司長、長老たちから訴えがなされたときは、何もお答えにならなかった。	23 4 ピラトは祭司長たちや群衆に、「この人には何の罪も見つからない。」と言った。	18 37 そこでピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのですか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたが言うとおりです。わたしは、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に来たのです。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。
15 4 ピラトはもう一度イエスに尋ねて言った。「何も答えないのですか。見なさい。彼らはあんなにまであなたを訴えているのです。」	27 13 そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにいろいろとあなたに不利な証言をしているのに、聞こえないのですか。」		18 38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」 彼はこう言ってから、またユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私は、あの人には罪を認めません。
15 5 それでも、イエスは何もお答えにならなかった。それにはピラトも驚いた。	27 14 それでも、イエスは、どんな訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた。	23 5 しかし彼らはあくまで言い張って、「この人は、ガリラヤからここまで、ユダヤ全土で教えながら、この民を扇動しているのです。」と言った。	

2. ヘロデ・アンティパスの前での裁判

ルカ 23章6節 ~ 12節

- 23:6 それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ねて、
 23:7 ヘロデの支配下にあるとわかると、イエスをヘロデのところへ送った。ヘロデもそのころエルサレムにいたからである。
 23:8 ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。ずっと前からイエスのことを聞いていたので、イエスに会いたいと思っていたし、イエスの行なう何かの奇蹟を見たいと考えていたからである。
 23:9 それで、いろいろと質問したが、イエスは彼に何もお答えにならなかった。
 23:10 祭司長たちと律法学者たちは立って、イエスを激しく訴えていた。
 23:11 ヘロデは、自分の兵士たちといっしょにイエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はでな衣を着せて、ピラトに送り返した。
 23:12 この日、ヘロデとピラトは仲よくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

3. ピラトの前での第二の裁判

章 節	マルコ 15章 6節-15節	章 節	マタイ 27章 15-26節	章 節	ルカ 23章 13-25節	章 節	ヨハネ 18章 39節-19章16節
				23 13	ピラトは祭司長たちと指導者たちと民衆とを呼び集め、		
				23 14	こう言った。「あなたがたは、この人を、民衆を惑わす者として、私のところに連れて来たけれども、私があなたがたの前で取り調べたところ、あなたがたが訴えているような罪は別に何も見つかりません。」		
				23 15	ヘロデとても同じです。彼は私たちにこの人を送り返しました。見なさい。この人は、死罪に当たるとは、何一つしていません。」		
				23 16	だから私は、懲らしめたうえで、釈放します。」		
15 6	ところでピラトは、その祭りには、人々の願う囚人をひとりだけ赦免するのを例としていた。	27 15	ところで総督は、その祭りには、群衆のために、いつも望みの囚人をひとりだけ赦免してやっていた。				
15 7	たまたま、バラバという者がいて、暴動のとき人殺しをした暴徒たちといっしょに牢にはいていた。	27 16	そのころ、バラバという名の知れた囚人が捕えられていた。				
15 8	それで、群衆は進んで行って、いつものようにしてもらうことを、ピラトに要求し始めた。						
15 9	そこでピラトは、彼らに答えて、「このユダヤ人の王を釈放してくれというのか。」と言った。	27 17	それで、彼らが集まったとき、ピラトが言った。「あなたがたは、だれを釈放してほしいのか。バラバか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」			18 39	しかし、過越の祭りに、私があなたがたのためにひとりの者を釈放するのがならわしになっています。それで、あなたがたのために、ユダヤ人の王を釈放することにしましょうか。」
15 10	ピラトは、祭司長たちが、ねたみからイエスを引き渡したことに、気づいていたからである。	27 18	ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことに気づいていたのである。			18 40	すると彼らはみな、また大声をあげて、「この人ではない。バラバだ。」と言った。このバラバは強盗であった。

章 節 マルコ 15章 6節-15節	章 節 マタイ 27章 15-26節	章 節 ルカ 23章 13-25節	章 節 ヨハネ 18章 39節-19章16節
15 11 しかし、祭司長たちは群衆を扇動して、むしろバラバを釈放してもらいたいと言わせた。	27 19 また、ピラトが裁判の席に着いていたとき、彼の妻が彼のもとに人をやって言わせた。「あの正しい人にはかかわり合わないでください。ゆうべ、私は夢で、あの人のことで苦しいめに会いましたから。」 27 20 しかし、祭司長、長老たちは、バラバのほうを願うよう、そして、イエスを死刑にするよう、群衆を説きつけた。 27 21 しかし、総督は彼らに答えて言った。「あなたがたは、ふたりのうちどちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」	23 18 しかし彼らは、声をそろえて叫んだ。「この人を除け。バラバを釈放しろ。」 23 19 バラバとは、都に起こった暴動と人殺しのことで、牢にはいついた者である。	19 1 そこで、ピラトはイエスを捕えて、むち打ちにした。 19 2 また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。 19 3 彼らは、イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」と言い、またイエスの顔を平手で打った。 19 4 ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということ、あなたがたに知らせるためです。」
15 12 そこで、ピラトはもう一度答えて、「ではいったい、あなたがたがユダヤ人の王と呼んでいるあの人を、私にどうせよというのか。」と言った。	27 22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと言われているイエスを私はどのようにしようか。」彼らはいっせいに言った。「十字架につけろ。」	23 20 ピラトは、イエスを釈放しようと思って、彼らに、もう一度呼びかけた。	19 5 それでイエスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼らに「さあ、この人です。」と言った。

章 節 マルコ 15章 6節-15節	章 節 マタイ 27章 15-26節	章 節 ルカ 23章 13-25節	章 節 ヨハネ 18章 39節-19章16節
15 13 すると彼らはまたも「十字架につけろ。」と叫んだ。	27 23 だが、ピラトは言った。「あの人がどんな悪い事をしたというのか。」しかし、彼らはますます激しく「十字架につけろ。」と叫び続けた。	23 21 しかし、彼らは叫び続けて、「十字架だ。十字架につけろ。」と言った。	19 6 祭司長たちや役人たちはイエスを見ると、激しく叫んで、「十字架につけろ。」と言った。ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。私はこの人には罪を認めません。」
15 14 だが、ピラトは彼らに、「あの人がどんな悪いことをしたというのか。」と言った。しかし、彼らはますます激しく「十字架につけろ。」と叫んだ。		23 22 しかしピラトは三度目に彼らにこう言った。「あの人がどんな悪いことをしたというのか。あの人には、死に当たる罪は、何も見つかりません。だから私は、懲らしめたうえで、釈放します。」	19 7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちには律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」
			19 8 ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れた。 19 9 そして、また官邸にはいって、イエスに言った。「あなたはどこの人ですか。」しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。 19 10 そこで、ピラトはイエスに言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのですか。」 19 11 イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」 19 12 こういうわけで、ピラトはイエスを釈放しようと努力した。しかし、ユダヤ人たちは激しく叫んで言った。「もしこの人を釈放するのなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王だとする者はすべて、カイザルにそむくのです。」

章 節	マルコ 15章 6節-15節	章 節	マタイ 27章 15-26節	章 節	ルカ 23章 13-25節	章 節	ヨハネ 18章 39節-19章16節
						19 13	そこでピラトは、これらのことばを聞いたとき、イエスを外に引き出し、敷石（ヘブル語でガバタ）と呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。
						19 14	その日は過越の備え日で、時は六時ごろであった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、あなたがたの王です。」
				23 23	ところが、彼らはあくまで主張し続け、十字架につけるよう大声で要求した。そしてついにその声が勝った。	19 15	彼らは激しく叫んだ。「除け。除け。十字架につけろ。」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか。」祭司長たちは答えた。「カイザルのほかに、私たちに王はありません。」
		27 24	そこでピラトは、自分では手の下しようがなく、かえって暴動になりそうなを見て、群衆の目の前で水を取り寄せ、手を洗って、言った。（ <i>申命21:6-9</i> ）「この人の血について、私には責任がない。自分たちで始末するがよい。」				
		27 25	すると、民衆はみな答えて言った。「その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい。」				
15 15	それで、ピラトは群衆のきげんをとろうと思い、バラバを釈放した。そして、イエスをむち打って後、十字架につけるようにと引き渡した。	27 26	そこで、ピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスをむち打ってから、十字架につけるために引き渡した。	23 24	ピラトは、彼らの要求どおりにすることを宣告した。	19 16	そこでピラトは、そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。
				23 25	すなわち、暴動と人殺しのかどで牢にはいていた男を願いどおりに釈放し、イエスを彼らに引き渡して好きなようにさせた。		

IV. メシアの死

A. カルバリへの行進

マルコ 15章20節-23節	マタイ 27章31-34節	ルカ 23章26-33節	ヨハネ 19章 16節-17節
章 節	章 節	章 節	章 節
15 20 彼らはイエスを嘲弄したあげく、その紫の衣を脱がせて、もとの着物をイエスに着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。	27 31 こんなふうには、イエスからなかったあげく、その着物を脱がせて、もとの着物を着せ、十字架につけるために連れ出した。		19 16 そこでピラトは、そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。
15 21 そこへ、アレキサンデルとルポスとの父で、シモンというクレネ人が、いななかから出て来て通りかかったのので、彼らはイエスの十字架を、むりやりに彼に背負わせた。	27 32 そして、彼らが出て行くと、シモンというクレネ人を見つけたので、彼らは、この人にイエスの十字架を、むりやりに背負わせた。	23 26 彼らは、イエスを引いて行く途中、いななかから出て来たシモンというクレネ人をつかまえ、この人に十字架を負わせてイエスのうしろから運ばせた。	19 17 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスご自分で十字架を負って、
		23 27 大ぜいの民衆やイエスのことを嘆き悲しむ女たちの群れが、イエスのあとについて行った。	
		23 28 しかしイエスは、女たちのほうに向いて、こう言われた。「エルサレムの娘たち。わたしのことで泣いてはいけない。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのことのために泣きなさい。	
		23 29 なぜなら人々が、『不妊の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は、幸いだ。』と言う日が来るのですから。	
		23 30 そのとき、人々は山に向かって、『われわれの上に倒れかかってくれ。』と言い、丘に向かって、『われわれをおおってくれ。』と言い始めます。(ホセア 10:8)	
		23 31 彼らが生木にこのようなことをするのなら、枯れ木には、いったい、何が起こるでしょう。」	
		23 32 ほかにふたりの犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために、引かれて行った。	
15 22 そして、彼らはイエスをゴルゴタの場所(訳すと、「どくろ」の場所)へ連れて行った。	27 33 ゴルゴタという所(「どくろ」と言われている場所)に来てから、	23 33 「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人とを十字架につけた。犯罪人のひとりには右に、ひとりには左に。	「どくろの地」という場所(ヘブル語でゴルゴタと言われる)に出て行かれた。
15 23 そして彼らは、没薬を混ぜたぶどう酒をイエスに与えようとしたが、イエスはお飲みにならなかった。	27 34 彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。(詩69:21) イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。		

B. 十字架上の最初の三時間

マルコ 15章 章 節 24節-32節	マタイ 27章35-44節 章 節	ルカ 23章33-43節 章 節	ヨハネ 19章18節-27節 章 節
15 24 それから、彼らは、イエスを十字架につけた。そして、だれが何を取るかをくじ引きで決めたうえで、イエスの着物を分けた。(詩22:18)	27 35 こうして、イエスを十字架につけてから、彼らはくじを引いて、イエスの着物を分け、	23 33 「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人とを十字架につけた。犯罪人のひとりには右に、ひとりは左に。	19 18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真中にしてであった。
15 25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。	27 36 そこにすわって、イエスの見張りをした。	23 34 そのとき、イエス是这样言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。	19 23 さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。
15 26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王。」と書いてあった。	27 37 また、イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである。」と書いた罪状書きを掲げた。	23 38 「これはユダヤ人の王。」と書いた札もイエスの頭上に掲げてあった。	19 24 そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた。(詩 22:18)」という聖書が成就するためであった。
15 27 また彼らは、イエスとともにふたりの強盗を、ひとりには右に、ひとりには左に、十字架につけた。	27 38 そのとき、イエスといっしょに、ふたりの強盗が、ひとりには右に、ひとりには左に、十字架につけられた。		19 19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス。」と書いてあった。
			19 20 それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。またそれはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。
			19 21 そこで、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称した、と書いてください。」と言った。
			19 22 ピラトは答えた。「私の書いたことは私が書いたのです。」
15 29 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。(詩 22:7)「おお、神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。」	27 39 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって、	23 35 民衆はそばに立ってながめていた。指導者たちもあざ笑って言った。	
15 30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」	27 40 言った。「神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りて来い。」		

- 15 31 また、祭司長たちも同じように、律法学者たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。「他人は救ったが、自分は救えない。」
- 15 32 キリスト、イスラエルの王さま。たった今、十字架から降りてもらおうか。われわれは、それを見たら信じるから。」
- また、イエスといっしょに十字架につけられた者たちもイエスをののしった。
- 27 41 同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。
- 27 42 「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王さまなら、今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。彼は神により頼んでいる。(詩 22:8)」
- 27 43 もし神のお気に入りなら、いま救っていただくがいい。『わたしは神の子だ。』と言っているのだから。」
- 27 44 イエスといっしょに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエスをののしった。
- 23 36 兵士たちもイエスをあざけり、そばに寄って来て、酸いぶどう酒を差し出し、
- 23 37 「ユダヤ人の王なら、自分を救え。」と言った。
- 23 39 十字架にかけられていた犯罪人のひとりはいエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え。」と言った。
- 23 40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。」
- 23 41 われわれは、自分のしたことへの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」
- 23 42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」
- 23 43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」
- 19 25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。
- 19 26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた。
- 19 27 それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます。」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。

C. 十字架上の次の三時間

マルコ 15章33節-37節 章 節	マタイ 27章45-50節 章 節	ルカ 23章44-46節 章 節	ヨハネ 19章28節-30節 章 節
15 33 さて、十二時になったとき、全地が暗くなって、午後三時まで続いた。	27 45 さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。	23 44 そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで続いた。	
15 34 そして、三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ。」と叫ばれた。それは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。	27 46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。 (詩 22:1)	23 45 太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真二つに裂けた。	
15 35 そばに立っていた幾人かが、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる。」と言った。	27 47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる。」と言った。		
15 36 すると、ひとりが走って行って、海綿に酸いぶどう酒を含ませ、それを葦の棒につけて、イエスに飲ませようとしながら言った。「エリヤがやって来て、彼を降ろすかどうか、私たちは見ることにしよう。」	27 48 また、彼らのひとりがすぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。 27 49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうかに見ることにしよう。」と言った。		19 28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く。」と言われた。 19 29 そこには酸いぶどう酒のいっぱいはいった入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。(詩 69:21)
15 37 それから、イエスは大声をあげて息を引き取られた。	27 50 そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。	23 46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。 (詩 31:5)」こう言って、息を引き取られた。	19 30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。

D. 十字架に伴なったしるし

マルコ 15章38節-41節	マタイ 27章51-56節	ルカ 23章45,47-49節
章 節 15 38 神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。	章 節 27 51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。 27 52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。 27 53 そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都にはいって多くの人に現われた。	章 節 23 45 太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真二つに裂けた。
15 39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのような息を引き取られたのを見て、「この方はまことに神の子であった。」と言った。	27 54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言った。	23 47 この出来事を見た百人隊長は、神をほめたたえ、「ほんとうに、この人は正しい方であった。」と言った。
15 40 また、遠くのほうから見ていた女たちもいた。その中にマグダラのマリヤと、小ヤコブとヨセの母マリヤと、またサロメもいた。	27 55 そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。	23 48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、こういういろいろの出来事を見たので、胸をたたいて悲しみながら帰った。
15 41 イエスがガリラヤにおられたとき、いつもつき従って仕えていた女たちである。このほかに、イエスといっしょにエルサレムによって来た女たちがたくさんいた。	27 56 その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。	23 49 しかし、イエスの知人たちと、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちとはみな、遠く離れて立ち、これらのことを見ていた。

E. イエスの埋葬

マルコ 15章 章 節 42節-46節	マタイ 27章 章 節 57-60節	ルカ 23章 章 節 50-54節	ヨハネ 19章31節-42節 章 節
			19 31 その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に(その安息日は大いなる日であったので)、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。
			19 32 それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。
			19 33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。
			19 34 しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。
			19 35 それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。
			19 36 この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない。」という聖書のことばが成就するためであった。(出エ12:46 民数9:12 詩34:20)
			19 37 また聖書の別のところには、(ゼカリヤ12:10 申命21:22-23 出エ34:24)「彼らは自分たちが突き刺した方を見る。」と言われているからである。

マルコ 15章42節-46節	マタイ 27章57-60節	ルカ 23章50-54節	ヨハネ 19章31節-42節
章 節	章 節	章 節	章 節
15 42 すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であったので、	27 57 夕方になって、		
15 43 アリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願った。ヨセフは有力な議員であり、みずからも神の国を待ち望んでいた人であった。	アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。	23 50 さてここに、ヨセフという、議員のひとりで、リッパナ、正しい人がいた。	19 38 そのあとで、イエスの弟子ではあったがユダヤ人を恐れてそのことを隠していたアリマタヤのヨセフが、
	27 58 この人はピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願った。	23 51 この人は議員たちの計画や行動には同意しなかった。彼は、アリマタヤというユダヤ人の町の人で、神の国を待ち望んでいた。	イエスのからだを取りかたづけたいとピラトに願った。それで、ピラトは許可を与えた。
15 44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いて、百人隊長を呼び出し、イエスがすでに死んでしまったかどうかを聞いた。		23 52 この人が、ピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願った。	
15 45 そして、百人隊長からそうと確かめてから、イエスのからだをヨセフに与えた。	そこで、ピラトは、渡すように命じた。		そこで彼は来て、イエスのからだを取り降ろした。
			19 39 前に、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。
15 46 そこで、ヨセフは亜麻布を買って、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、	27 59 ヨセフはそれを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、	23 53 それから、イエスを取り降ろして、亜麻布で包み、そして、まだだれをも葬ったことのない、	19 40 そこで、彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、それを香料といっしょに亜麻布で巻いた。
岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけておいた。	27 60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。	岩に掘られた墓にイエスを納めた。	19 41 イエスが十字架につけられた場所に園があって、そこには、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。(申命 21:22-23)
		23 54 この日は準備の日で、もう安息日が始まろうとしていた。	19 42 その日がユダヤ人の備え日であったため、墓が近かったため、彼らはイエスをそこに納めた。

F. 墓の封印

マルコ 15章47節	マタイ 27章61-66節	ルカ 23章55-56節
章 節 15 47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。	章 節 27 61 そこにはマグダラのマリヤとほかのマリヤとが墓のほうを向いてすわっていた。 27 62 さて、次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラトのところに集まって、 27 63 こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる。』と言っていたのを思い出しました。 27 64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった。』と民衆に言うかもしれません。そうすると、この惑わしのほうが、前のばあいより、もっとひどいことになります。」 27 65 ピラトは「番兵を出してやるから、行っただけの番をさせるがよい。」と彼らに言った。 27 66 そこで、彼らは行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。	章 節 23 55 ガリラヤからイエスといっしょに出て来た女たちは、ヨセフについて行って、墓と、イエスのからだの納められる様子を見届けた。 23 56 そして、戻って来て、香料と香油を用意した。安息日には、戒めに従って、休んだが、(出エ 12:16, 20:8-11, 申命 5:12-15)

V. 復活と昇天

A. 復活の日の明け方

章 節	マルコ 16章1節	章 節	マタイ 28章1節
16	1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。	28	1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤと、ほかのマリヤが墓を見に来た。

B. 開いた墓

マタイ 28章2節 ~ 4節

- 28:2 すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。
- 28:3 その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。
- 28:4 番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。

C. 墓を訪問する婦人たち

章 節	マルコ 16章2節-8節	章 節	マタイ 28章5節-8節	章 節	ルカ 24章1-8節	章 節	ヨハネ 20章1節
16	2 そして、週の初めの日の早朝、日が上ったとき、墓に着いた。			24	1 週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。	20	1 さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓に来た。
16	3 彼女たちは、「墓の入口からあの石をころがしてくれる人が、だれかいるでしょうか。」とみなで話し合っていた。			24	2 見ると、石が墓からわきへころがしてあった。		
16	4 ところが、目を上げて見ると、あれほど大きな石だったのに、その石がすでにころがしてあった。			24	3 はいって見ると、主イエスのからだはなかった。		そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。
16	5 それで、墓の中にはいったところ、真白な長い衣をまとった青年が右側にすわっているのが見えた。彼女たちは驚いた。	28	5 すると、御使いは女たちに言った。「恐れてはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。	24	4 そのため女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くに来た。		

マルコ 16章2節-8節	マタイ 28章5節-8節	ルカ 24章1-8節	ヨハネ 20章1節
章 節	章 節	章 節	章 節
16 6 青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょう。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。」	28 6 ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんなさい。	24 5 恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。」	
16 7 ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます。』とそう言いなさい。」	28 7 ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いできるということです。では、これだけはお伝えしました。」	24 6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。	
16 8 女たちは、墓を出て、そこから逃げ去った。すっかり震え上がって、気も転倒していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。	28 8 そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。	24 7 人の子は必ず罪人の手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」 24 8 女たちはイエスのみことばを思い出した。	

D. 使徒たちへの報告

ルカ 24章9-12節	ヨハネ 20章2節-10節
章 節	章 節
24 9 そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告した。	20 2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子と のところにきて、言った。「だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにはわかりません。」
24 10 この女たちは、マグダラのマリヤとヨハンナとヤコブの母マリヤとであった。彼女たちといっしょにいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。	20 3 そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。 20 4 ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かった ので、先に墓に着いた。
24 11 ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。	20 5 そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見た が、中にはいらなかった。
24 12 [しかしペテロは、立ち上がると走って墓へ行き、かがんでのぞき込んだところ、亜麻布だけがあった。それで、この出来事に驚いて家に帰った。]	20 6 シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓にはいり、亜麻布が置いてあって、 20 7 イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた 所に巻かれたままになっているのを見た。 20 8 そのとき、先に墓についたもうひとりの弟子もはいつて来た。そして、見 て、信じた。 20 9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書 を、まだ理解していなかったのである。 20 10 それで、弟子たちはまた自分のところに帰って行った。

E. 最初の顕現: マグダラのマリヤ

章 節	マルコ 16章9節-11節	章 節	ヨハネ 20章11節-18節
16 9	〔さて、週の初めの日の朝早くによみがえったイエスは、まずマグダラのマリヤにご自分を現わされた。イエスは、以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたのであった。〕	20 11	しかし、マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。
16 10	マリヤはイエスといっしょにいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行き、そのことを知らせた。	20 12	すると、ふたりの御使いが、イエスのからだが置かれていた場所に、ひとりは頭のところに、ひとりは足のところに、白い衣をまといすわっているのが見えた。
16 11	ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。	20 13	彼らは彼女に言った。「なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」
		20 14	彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし、彼女にはイエスであることがわからなかった。
		20 15	イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、それを園の管理人だと思って言った。「あなたが、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのか教えてください。そうすれば私が引き取ります。」
		20 16	イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボニ(すなわち、先生)。」とイエスに言った。
		20 17	イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。」
		20 18	マグダラのマリヤは、行って、「私は主にお目にかかりました。」と言い、また、主が彼女にこれらのことを話されたことと弟子たちに告げた。

F. 第二の顕現: それ以外の婦人たち

マタイ 28章9節 ~ 10節

- 28: 9 すると、イエスが彼女たちに出会って、「おはよう。」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。
- 28:10 すると、イエスは言われた。「恐れてはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。」

G. 番兵の報告

マタイ 28章11節 ~ 15節

- 28:11 女たちが行き着かないうちに、もう、数人の番兵が都に来て、起こった事を全部、祭司長たちに報告した。
 28:12 そこで、祭司長たちは民の長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、
 28:13 こう言った。「『夜、私たちが眠っている間に、弟子たちがやって来て、イエスを盗んで行った。』と言うのだ。
 28:14 もし、このことが総督の耳にはいっても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」
 28:15 そこで、彼らは金をもらって、指図されたとおりにした。それで、この話が広くユダヤ人の間に広まって今日に及んでいる。

H. 第三の顕現: エマオ途上の2人の弟子

マルコ 16章12節13節	ルカ 24章13-32節
章 節	章 節
16 12 その後、彼らのうちのふたりがいなか のほうへ歩いていたり、イエスは 別の姿でご自分を現わされた。	24 13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れたエ マオという村に行く途中であった。
16 13 そこでこのふたりも、残りの人たちのと ころへ行ってこれを知らせたが、彼ら はふたりの話も信じなかった。	24 14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。 24 15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに 道を歩いておられた。 24 16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。
	24 17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」す ると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。
	24 18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あな ただけが知らなかったのですか。」
	24 19 イエスが、「どんな事ですか。」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。こ の方は、神とすべての民の前で、行ないにもことばにも力のある預言者でした。
	24 20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につ けたのです。
	24 21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。事 実、そればかりでなく、その事があってから三日目になりますが、
	24 22 また仲間の女たちが私たちを驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみました、
	24 23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使い たちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。
	24 24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエス まは見当たらなかった、というのです。」
	24 25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の 鈍い人たち。
	24 26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光にはいるはずではなかった のですか。」
	24 27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分につ いて書いてある事がらを彼らに説き明かされた。
	24 28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうな様子であった。
	24 29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きま したから。」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中にはいられ た。
	24 30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。
	24 31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。
	24 32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私 たちの心はうちに燃えていたではないか。」

I. 第四の顕現: シモン・ペテロ

ルカ 24章33-35節	コリント I 15章5節
章 節 24 33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、 24 34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。 24 35 彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。	章 節 15 5 また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。

J. 第五の顕現: 10人の使徒

マルコ 16章14節	ルカ 24章36-43節	ヨハネ 20章19節-25節
章 節 16 14 しかしそれから後になって、イエスは、その十一人が食卓に着いているところに現われて、彼らの不信仰とかたくなな心をお責めになった。それは、彼らが、よみがえられたイエスを見た人たちの言うところを信じなかったからである。	章 節 24 36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。 24 37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。 24 38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。 24 39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」 24 40 [イエスはこう言われて、その手と足を彼らにお示しになった] 24 41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。 24 42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、 24 43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。	章 節 20 19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであつた。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあつたが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」 20 20 こう言つてイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。

- 20 21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」
- 20 22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」
- 20 23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」
- 20 24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らといっしょにいなかった。
- 20 25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。

K. 第六の顕現: 11人の使徒

ヨハネ 20章26節-31節

章 節

- 20 26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように。」と言われた。
- 20 27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」
- 20 28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」
- 20 29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」
- 20 30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。
- 20 31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によつていのちを得るためである。

コリント I 15章5節

章 節

- 15 5 また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。

L. 第七の顕現: 7人の使徒

ヨハネ 21章

- 21:1 この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。
- 21:2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナの子ナタナエル、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟子が いっしょにいた。
- 21:3 シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちもいっしょに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。
- 21:4 夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであることがわからなかった。
- 21:5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」
- 21:6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびたしい魚のために、網を引き上げることができなかった。

- 21:7 そこで、イエスの愛されたあの弟子がペテロに言った。「主です。」すると、シモン・ペテロは、主であると聞いて、裸だったので、上着をまとい、湖に飛び込んだ。
- 21:8 しかし、ほかの弟子たちは、魚の満ちたその網を引いて、小舟でやって来た。陸地から遠くなく、百メートル足らずの距離だったからである。
- 21:9 こうして彼らが陸地に上がったとき、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあるのを見た。
- 21:10 イエスは彼らに言われた。「あなたがたの今とった魚を幾匹か持って来なさい。」
- 21:11 シモン・ペテロは舟に上がって、網を陸地に引き上げた。それは百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったけれども、網は破れなかった。
- 21:12 イエスは彼らに言われた。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」弟子たちは主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか。」とあえて尋ねる者はいなかった。
- 21:13 イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。
- 21:14 イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現わされたのは、すでにこれで三度目である。
- 21:15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」
- 21:16 イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」
- 21:17 イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておりになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」
- 21:18 まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」
- 21:19 これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現わすかを示して、言われたことであった。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」
- 21:20 ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか。」と言った者である。
- 21:21 ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」
- 21:22 イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」
- 21:23 そこで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡った。しかし、イエスはペテロに、その弟子が死なないと言われたのでなく、「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。」と言われたのである。
- 21:24 これらのことについてあかしした者、またこれらのことを書いた者は、その弟子である。そして、私たちは、彼のあかしが真実であることを、知っている。
- 21:25 イエスが行なわれたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は思う。

M. 第八の顕現: 500人の弟子

章 節 マルコ 16章15節-18節	章 節 マタイ 28章16節-20節	章 節 コリント I 15章6節
16 15 それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。 16 16 信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。 16 17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、 16 18 蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされます。」	28 16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行つて、イエスの指示された山に登った。 28 17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。 28 18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。 28 19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、 28 20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。 見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」	15 6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。

N. 第九の顕現: ヤコブ

コリント I 15章7節

15:7 その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。

O. 第十の顕現: 11人の使徒

ルカ 24章44-49節	使徒の働き 1章3節-8節
章 節 24 44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたと いっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わ たしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあるこ とは、必ず全部成就するということでした。」 24 45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、 24 46 こう言われた。「次のように書いてあります(ホセア 6:2)。キリ ストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、 24 47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレ ムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。 24 48 あなたがたは、これらのことの証人です。 24 49 さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあな たがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せ られるまでは、都にとどまっていなさい。」	章 節 1 3 イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現われて、 神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分 が生きていることを使徒たちに示された。 1 4 彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。 「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待 ちなさい。」 1 5 ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなた がたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」 1 6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ね た。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださ るのですか。」 1 7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、 あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分 の権威をもってお定めになっています。」 1 8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがた は力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの 全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

P. 昇天

マルコ 16章19,20節	ルカ 24章50-53節	使徒の働き 1章9節-12節
章 節 16 19 主イエスは、彼らにこう話さ れて後、天に上げられて神 の右の座に着かれた。 16 20 そこで、彼らは出て行って、 至る所で福音を宣べ伝え た。主は彼らとともに働き、 みことばに伴うしるしをもっ て、みことばを確かなものと された。」	章 節 24 50 それから、イエスは、彼らをベタニヤま で連れて行き、手を上げて祝福された。 24 51 そして祝福しながら、彼らから離れて行 かれた。 24 52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレ ムに帰り、 24 53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。	章 節 1 9 こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に 上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。 1 10 イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天 を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た 人がふたり、彼らのそばに立っていた。 1 11 そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ 天を見上げて立っているのですか。あなたが たを離れて天に上げられたこのイエスは、天 に上って行かれるのをあなたがたが見たとき と同じ有様で、またおいでになります。」 1 12 そこで、彼らはオリーブという山からエルサレ ムに帰った。 この山はエルサレムの近くであって、安息日 の道のりほどの距離であった。

Q. 続編

1. しるしについて
2. 使徒の働き
3. ヘブル人への手紙
4. ヨナの第三のしるし

フルクテンバウム・セミナーCD

2008年『神の人類救済プログラム』テキスト付 4枚組 6,600円

〈内容〉ディスペンセーションナリズムの立場から学ぶ

1. ディスペンセーションとは何か
2. ディスペンセーションの種類
3. 契約神学（置換神学の主流）
4. 解釈学
5. 救済論
6. 教会論
7. 終末論

2007年『三位一体』テキスト付 4枚組 3,200円

〈内容〉イントロダクション、1. 神の位格の複数性、2. 神の位格の単一性、3. 三位一体の神、4. 結論

2007年『旧約聖書におけるメシア預言』テキスト付 4枚組 3,200円

〈内容〉イントロダクション、1. 律法、2. 預言書

2006年『イスラエル学』テキスト付 8枚組 4,900円

〈内容〉1. 過去のイスラエル、2. 現在のイスラエル、3. 将来のイスラエル、4. その他の関連事項

2005年『ユダヤ的視点から見た メシアの生涯』テキスト付 12枚組

8,000円

〈内容〉1. その誕生と成長過程 2. イエスの教えとパリサイ人との葛藤
3. メシアの裁判 4. メシアの死 5. 復活と昇天

2003年『ヨハネの黙示録』テキスト付 6枚組 4,700円

〈内容〉1. ヨハネが見たこと 2. 今ある事 3. この後に起こること 結論

2002年『聖書の八つの契約』テキスト付 9枚組

7,000円

〈内容〉はじめに 1. エデン契約 2. アダム契約 3. ノア契約 4. アブラハム契約
5. モーセ契約 6. パレスチナ契約 7. ダビデ契約 8. 新しい契約 結論

2001年『イスラエルの祭りに隠されたイエス・キリスト』テキスト付 10枚組 6,000円

〈内容〉1. 過越の祭り 2. 種を入れないパンの祭り 3. 初穂の祭り 4. 七週の祭り（ペンテコステ）
5. 春の祭りと秋の祭りの間の4か月 6. ラッパの祭り 7. 贖罪の日 8. 仮庵の祭り



無断複製・転載を禁じます